



板場広し

【CHOUSAIMIN:2】

超催眠 2

酒吞童子

よこやまなおき

2号

生ハメ!
ナカ出し!
思いのまま!

自分だけのメスに作り変えろ!

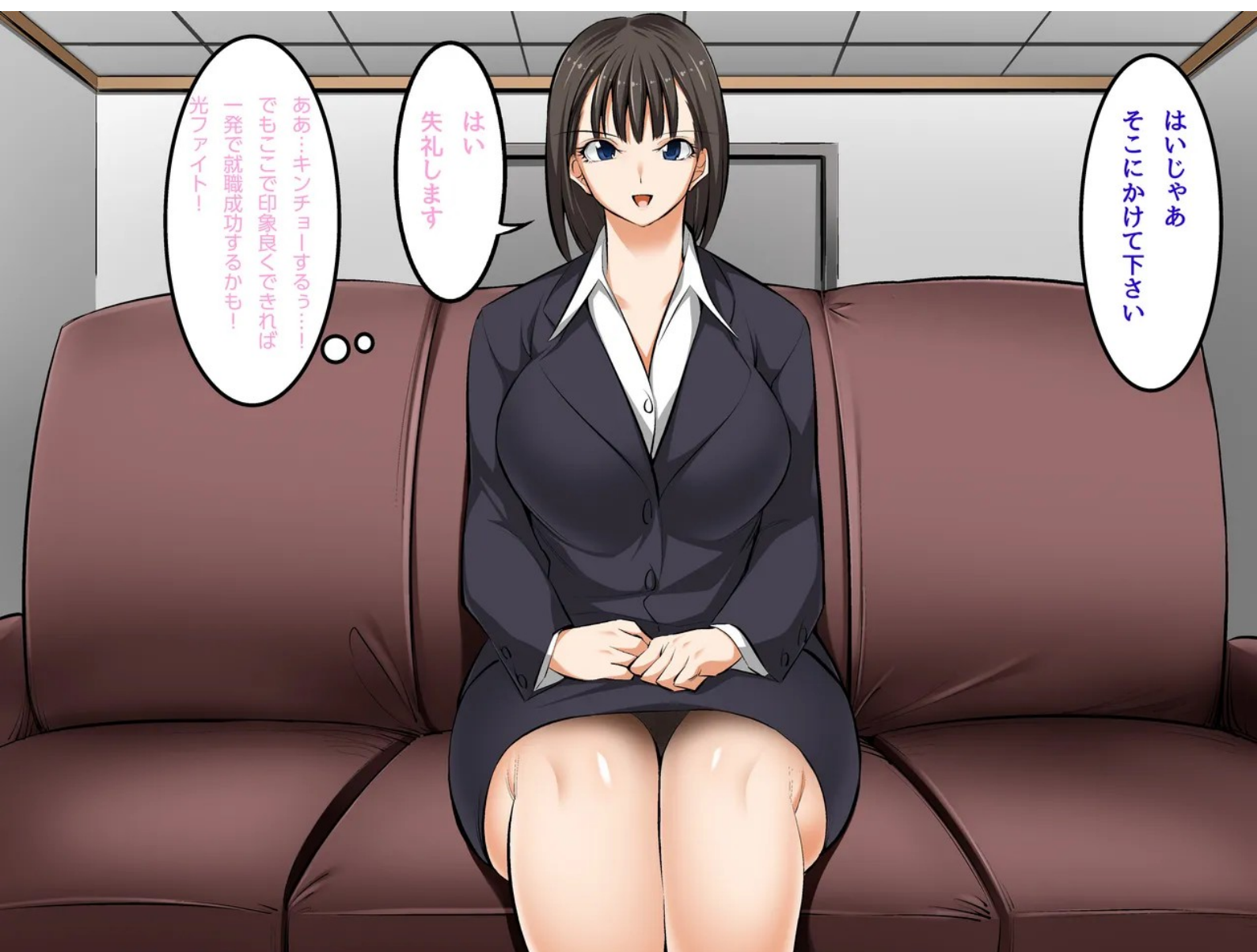
酒吞童子



はいじゃあ
そこにかけて下さい

はい
失礼します

ああ…キンチョーするう…!!
でもここで印象良くできれば
一発で就職成功するかも!
光ファイブ!

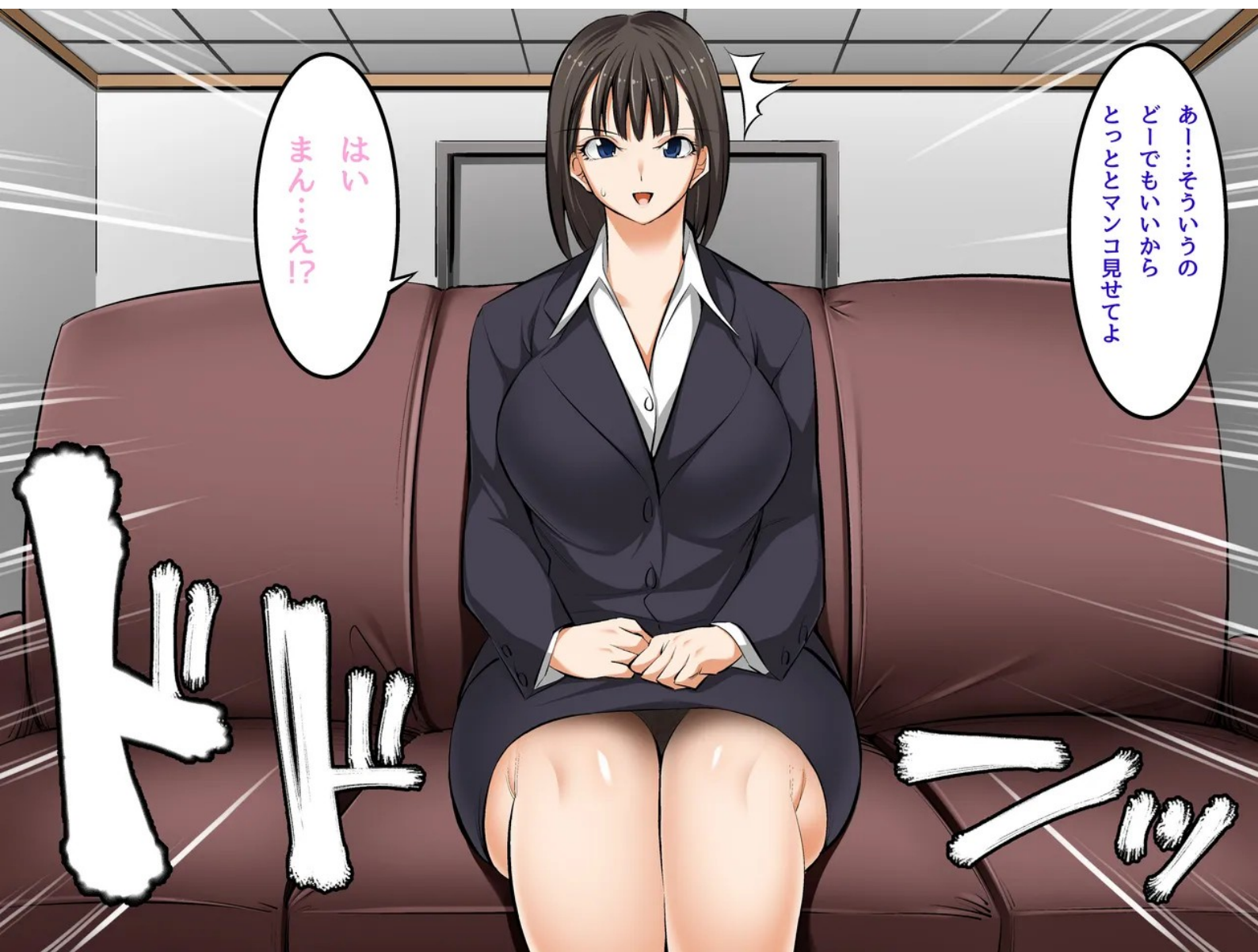


「大学3年 日野光です
大学では経済学部を先行してました

また 学生自治会では委員長をつとめ
組織運営を通して様々な経験を…
サークルはボランティア活動を…
海外へも渡り 様々な活動を
通じて社会奉仕の大切さと各国の…

ん…？ 何だろう
この香り…お香…？

ふわぁ



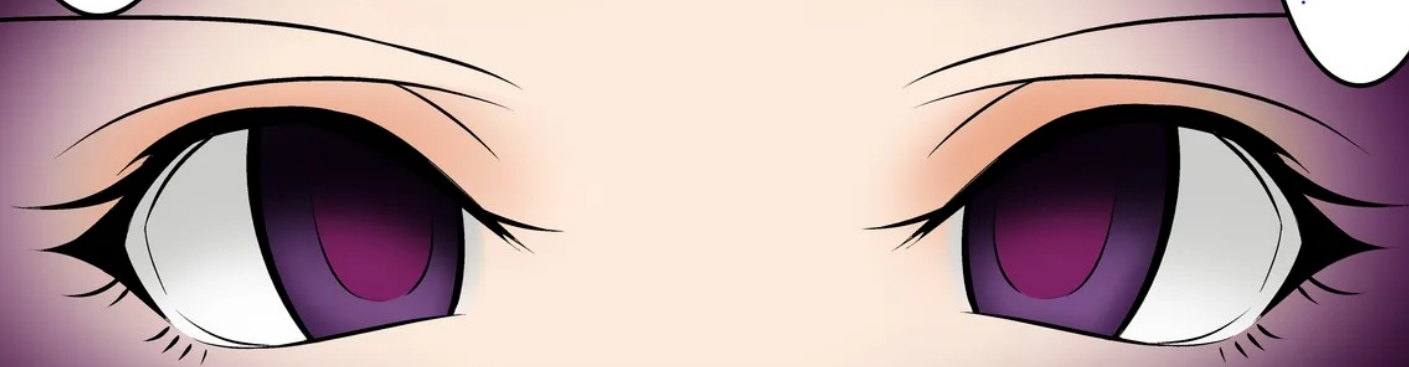
あー…そういうの
どーでもいいから
とつとマンコ見せてよ

はい
まん…え!?

自己紹介する時は
マンコを開いてみせる
社会人としての常識でしょ？
ハウツー本に書いてなかった？

そうだ…確かに書いてあった…
アタシだったらなんで
忘れちゃったんだろう…
基本中の基本なのに…！

ついでにオッパイも見せてね
「私はこういう者です」って
紹介するんだから
全部見せないとマナー違反だよ



はい…
失礼しました…





ええと...これで
よろしいでしょうか...?

はいよろしいですよ
じゃあマンコ開いてピンクの穴
見せながらつづけて下さいね

はい...

が

ぽあ...



丁大3年 日野光です！
うちは父一人子一人の父子家庭で
父は男手一つで私を育ててくれました
社会に出たら親孝行を…

へー名門の丁大の主席さんでも
マンコの色はフツーなんですね

あははあ…

マンコの臭いをかいでも
よろしいですか？

はっはい…べさぞ…







オナニーは週に
何回ぐらいですか？

指でズボズボ
ほじくるんですか？

週...4回ぐらいです...

クリも...
いじってます...

なるほどそれで
クリも大きく
育っちゃったんですねエ

あっ！

ふーむ 悪くない味ですよ
これが日野光さんの味なんですねエ

あぁっ...

ふーむ なかなか下品で
スケベなクリですよ
ちよっといじっただけで
勃起します

きよ 恐縮です...

アッ

ピッ

アッ

ピッ アッ

アッ



マン汁の分泌量も良いみたいですね
もうネチャネチャした汁がこんなに…
真面目な顔してる割には男好きな
マンコですね

すいません…

はぁ…

はぁ…

ヒリヒリ

ヒリヒリ

ロベ

ロベ

謝る事はありませんよ
濡れやすいマンコはポイント高いです
…フムよろしいとりあえず面接は合格です

ほんとですか!?

はい次は
アピールタイムに入しましょう

アピール…
タイム…?



こう…
ですか？

ここに何の
意味が…

バカかね君は
女にとって社会での
役割は何だ

ええと…

そうだその調子で私に媚を売り
SEXアピールをしない
私のチンポを勃起させられたら合格だよ

ギン…

SEXだよマンコだよ
おとくい様との接待や上司との枕営業
君が我が社で役に立てるのはマンコぐらいなものだ
その性能をはかる為のテストじゃないか
スケベに誘惑して男をその気にさせる
事もできないんじゃないかな
面接ハウツー本に書いてなかったかね？勉強不足な女だ

し失礼しました…

ではさっそく始めてもらおうか
君の体で私をスケベに誘惑して
勃起させるんだよカレシの
チンポをねだる様にね

ははあ…

さあヒントは十分だろう
もう子供じゃないんだから
あとは自分で考えたまえ

ちなみにヒントをあげよう
素人の君には流石に難しいだろうからね
1・「デープキス」
2・「下品でドスケベな言葉」
3・「マンコの感触」
私はこれらで興奮するフェチみたいなものだ

はいよろしく…
お願いします…





じゃじゃあの…
キスしてもよろしいでしょうか？

したいのかね？

はい…面接官さんと…キス
したいです…させて下さい♡

仕方ないな
良からう

失礼します…

4…
又4…
4…

4…
4…
4…
4…

面接官さんのお口…おいしいです…
舌を入れて唾液を味わっても
よろしいでしょうか…

ああ…



んう...んつぶ...

ん...んぶ...

4=1P
4=1P...
ニ=1L
ニ=1L...

4=1P
4=1P...
ズ4
ズ4...

んぶ...



はあ...はあ...
面接官さんのお口...おいしい...
ずっとペロペロしてたいです...♡

下品な言葉...誘惑...
光ファイト!

4=10
4=10

4=10+
4=10+

ああ...お乳さわって下さい...
光のお乳...子供の頃から牛みたい
だと言われて来たんですよ...
光のいやらしい乳肉さわって下さい...

いかがですか...?
指がつまる程大きいんです...
ムニムニ好きなのように
いじって下さい...

おにゅららら



ヤダ...♡
チクビ勃起しちゃいました...♡
スケベなチクビで...ごめんなさい...♡

ビーン♡

ビーン♡

3Pくん...♡

ああ...チクビコリコリ好き...♡
チクビ感じちゃうんです...♡

ムムム

オトゆうう

ムム♡

ムム♡

でも...男の人にいじられると...
すぐ反応しちゃうんです...♡
体がSEXの準備始めちゃうんです...♡



ほら...音聞こえますか...?
これ...何の音がわかります...?

マン汁の音ですよ...?
マン汁...♡

私すぐ濡れちゃう体質なんです...
男の人にかわいがってもらって
すぐに分泌しちゃうんです...

このトロトロの穴に...
指入れてみませんか...?

おんなの汁...
みっともないオツユ...♡
おまんまんのエキス...♡

ちゅ...
ちゅ...
ちゅ...



ズッ

ずんずんずん...

あんな...胸に...
さすめたくさ...



いかがですか...?
私のオマンコの感触...
粘膜の感触...

フフ...わかります、
オマンチヨのお肉
ギュッキュツてしてるの...
女の子ってマウらう事
できるんですよ...

...この中にオチンチン入れたら
きつと気持ちいですよ?
ちんちんギュッキュツて
しほっちゃいますよ...?





かたいちんちん...
ふっといおちんちん...欲しい...♡
ちんちんスコスコ...♡
まんこにスコスコ...♡

はあはあ...
ちんちん...ちんちん
かたくして下さい...♡

スコスコしましょ...♡
ハメハメしましょ...♡
ね...? ね...? ハメハメ...♡

ピュッ
ピュッ
ペロ
ペロ

ニョ
ニョ

くちゅ
くちゅ

ぐわ
ぐわ



うーむ 期待以上だよ君
スツカリチンポが元気になった
合格だ！

ほ 本当ですか!?

まさかここまでできるとは思ってなかったよ
さすがT大主席ともなると想像力も応用力も大したもんだ
ていうか想像だけでできる芸じゃないね
エロゲーとかエロ同人とかで勉強したのかな？

は はあ...まあ...
ネット等で 色々...

もっり

よし次はフェラ試験だ
この調子ならきつとうまく
いくよ 君

え あ はい...

さでは始めたまえ

ええつと...

何をしているんだね？
チンポを目の前に出されたら
女は何をすべきなのか知っているだろう？

今日はこのチンポで特別に
しゃぶりテストをしてやろうというのだ
本来君の様な貧乏人の下級国民には
ふれる事すらできない上級国民のチンポだよ
ありがたくしゃぶりなさい

はい...では...
失礼します...



ではまず皮を剥きなさい
優しくね

はい...

ム+ム+...
ぺろん

む...
あ...

何を驚いているのかね？

私は女にしかチンポを洗わせない主義だからね
このチンポは4日間ぐらいは洗ってないよ

.....

さてこのチンカスをどうするのかな？
別に私は帰っても良いが？

あ...



おお...いいぞ...
わかってきたじやあないか...
どうだね?うまいかね?
私のチンカスは...

はい...面接官さんの
チンカス...しよっぱくて
おいしいです...

ぴち
ぴち...

ぺろぺろ...

おおそうじ...
させていただきます...



ヒレイに…
なりまひた…

本当か？少しでも
残っていたら失格だよ？
臭いしなくなるまで
全部掃除したか？

ふあい…

おっちゃんああ…

おうよしよしきっちり全部
舐めとったようだね
チンカス掃除機としては中々の性能だ
ではそのチンカスどうするのが正解か…
頭の良い君ならわかるよね？



そうだフフフ中々察しが
良いじゃないか
おいしかったかね？
私の恥垢…チンポの垢は

はい…とっても…
おいしかったです…
チンカスごちそう様でした…

よろしい
では次のステップに進もう

そうだ中々うまいぞ
フェラチオはまず相手の目を見て
手を使わず丁寧に優しくだ

ただ強くしこけば感じるというものではない
優しく柔らかく口内の粘膜で抱きしめ
先端を舐めしゃぶりピストンするんだ…
チンポに対する慈しみの気持ちが大事なんだ

ふあい…

おお…いいぞ…
心地良い…

4ッポ 4ッポ
ぴちゃ ぴちゃ

4ッポ 4ッポ
ぴちゃ ぴちゃ



ああ...いいぞ...チンポに対する
愛を表現するんだ...目で訴えるんだ
「チンポ気持ち良くなってる下さい
ザーメン恵んで下さい」ってね...

ああ...で出るぞ...
出るぞ...白いの欲しいか?

臭いの欲しいか?

苦いの飲みたいか?

ずるっ

ずるっ

じゃっぽ
じゃっぽ

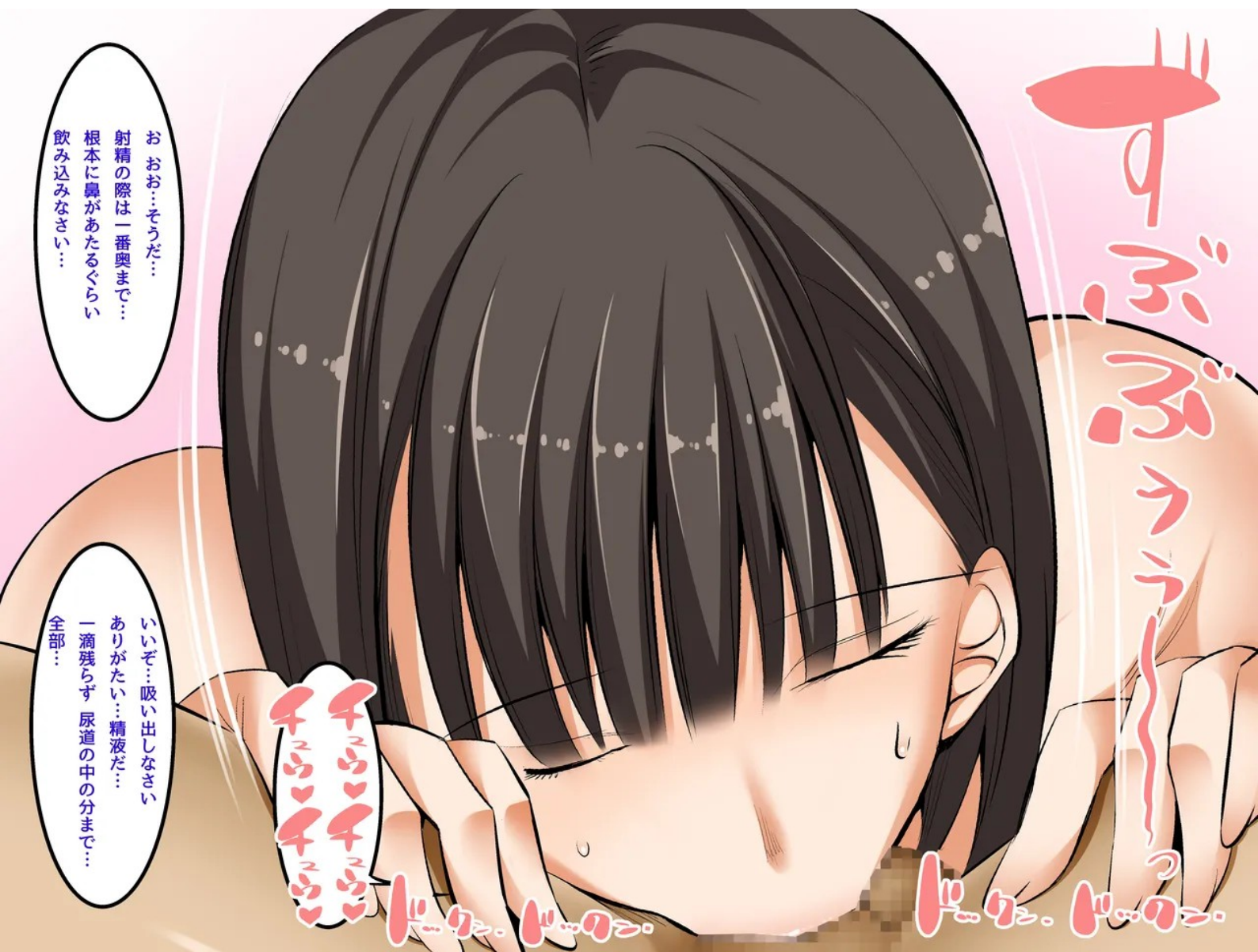
じゃっぽ
じゃっぽ

んっ

んっ

んっ
んっ
んっ







ははは たくさん出たな
口の中がザーメンプールだ

おおー

良い顔だよ君
正に便女といったところか…
女が一番女らしい瞬間だな
さどうすればいいか…わかるね？

おおー

おおー

おおー

…
のんでも…いいれふか？

フッフ 良からう



せいえき...おいしかったです...
ごちそう様...でした...

はぁ...
はぁ...

はははそれは良かった
君みたいな女には中々味わう事の
できないゴチソウだからね
一生の思い出にしないさい

はい...精液
ありがとうございます...

あーん♡

ふうむ 中々飲み込みが早いね君
いいぞ 合格だ次の膣試験に移ろう

ちっ...しけん...

さてでは始めようか
さっき教えた通りに…

はい…

日野光 21歳 大学3年です
今日は私の意思でこれから
SEXして頂きます

どうか私のオマンコの感触を
オチンチンでお試し下さい…

膣試験
お願いします…





あ……あああつ……!!

よしよし
和姦の証拠映像ができたな……
良い笑顔だったよ

それでは試してやろう
君の社会人としての価値をね……

ずぶずぶ!!

ふーむ 父子家庭の
貧乏人にしては
中々良いマンコじゃないか

ありがとう…
ございます…

そうだ 父一人子一人で育って来たんだろう
こんな立派なマンコに育ててくれた礼を言ったらどうだ？
ホラ これ今撮影してるからカメラに向かって言いなさい

はい…

ズッズッズッズッズッズッズッズッズッ



お父さん今まで育ててくれてありがとうございます
おかげで立派なおまんこになりました...

このおまんこを気に入ってもらえれば
お父さんの念願の〇〇社に
就職できそうです...

ありがとう...
パパ...

ズッズッズッ



うんうん お父さんも
鼻が高いだろうね
女にとってマンコこそが
価値の全てなんだから

マンコを社会に出すから少子化や
非婚化が進んで国力が衰えるんだ
君もそう思わないか？

そもそも女は社会に出る
必要なんてないんだよなア
マンコしか価値がないんだからおとなしく
チンポの相手だけしてればいいんだ

はい...

はいおっしやる
通りです...

あっ
あっ
あっ
あっ
あっ
あっ
あっ
あっ

パッパッパッ
パッパッパッ
パッパッパッ
パッパッパッ

ズドッ
ズドッ
ズドッ
ズドッ
ズドッ
ズドッ
ズドッ
ズドッ



君には今日から人間をやめて
マンコになる覚悟を決めてもらいたいね

オマンコに...

そうだ女に人権も人間性も
ごさかしい知恵もいらないんだ
そうだろう？ マンコだけあればいいんだ

オマンコだけ...

グスッ
グスッ

グスッ
グスッ

女はマンコなんだよ..
なあマンコ？

はい...私は
...マンコです...

さカメラの向こうのお父さんに
向かってマンコになりますって宣言しなさい
社会人としての第一歩だよ

はい...

ズッ
ズッ
ズッ
ズッ

お父さん…私 今日から…
マンコになります…人生やめて
ちんちんの為だけに生きます…

今まで愛してくれて
ありがとう…パパ…

バイバイ…

ズッズッズッズッズッズッズッズッズッ



よいしくぞ！
私のありがたい精子を
恵んでやる！

私のザーメンを
子宮で受けてきつちり
人生やめたまえ！

がぁあぁあ

がぁあぁあ

あぁあぁあ

どどどどど

どどどどど





ブルッ
ブル
ブルッ

うめ
うめ
うめ...

おっ
...

ぱ
ぱ
...

あ
...

おっ

おっ
...

ん
ん

じょ

3333

ん
ん

ん
ん

はあ...はあ...はあ...
フッフ 良い便女顔だ

ほれ イってる時は
ちゃんとブサイクになってる
イキ顔を見せたまえ





では早速「またの」利用」をしようか
まだまだ膣試験は途中だからね
あと6発は出させてもらうよ？

良かったな
また使ってもらえて

ろ…6発…

ナース

どろろ

おおお…

数時間後—

ハハハ 6発ともなると中々
板につけてきたじやないか
マンコとしての自覚が
ついてきたんじゃないか？

ありがとうございます
ございます…





お前の臭くて汚いマン汁と
私のありがたいザーメンが混じって
攪拌されてすっかりドロドロの
クリームになってしまったな

あとで全部飲んで
キレイにしろよ？

はい…キレイにさせて
頂きます…

ずるるるるるっ



ふいっ!

これも私の教育の賜物だ
良かったな使えるマンコになって

ズン

おほおっ!!

ははひ...
うれひい...ですう...

ヒッ

ははは 良い眺めだ君はまるで
全自動ザーメン吸い取り器だな





あタカ君？
うん うん...あのね...
急な話なんだけど...

別れて欲しいの...

うん...それはその
就職するから...

就職するには
別れないといけないって...

そんな事...
言われても...

ゴメンねタカ君...
...私...

ずぶぶぶ

ずぶぶ

みちみち

みち...



今日から社会人として
社畜マンコとして生きてくの
...今もしてるの...SEX

だからタカ君は...
もういない...

ゴメンね...ゴメンね...ゴメンなさい...
愛してる...タカ君...バイバイ...♥

...私 まんこに...
なるから...

そう...まんこ...
知ってるでしょ...? 女性器...
ヴァギナ 膣...

がぶるぶる

ぷりぷり

ぷり...



いいね伝わったよ
君の覚悟 大したもんだ
合格だよ

ありがとうございます...

じゃあ大学は今すぐやめて
家から出て私の家に住みなさい

え...? 就職...は?

何を言ってるんだね君?

これは最初から私専用の
便女になる為の面接じゃないか



え…？

そう…だったっけ…？

そっか…そうだったかも…
私は…最初から…

私は…まんこなりに
来たんだ…

はは…ははは…
そっか…そうだ…

君みたいなマンコ 我が社はいらんよ
もしかしてウチの会社に入る気だったの？
マンコのくせに？ バカなの？

はい…バカです…

知ってる
まあバカでもマンコは中々のものだ
代わりに私のオナホに使ってやる
よかったな？

上級国民様のザーメン吸い取り器
として一生働けるんだ
嬉しいだろう？

はい…嬉しいです…
ありがとうございます…

グズッ
グズッ

ホホ…

ズン

ズン

ズッ
ズッ

ズッ

パッ！パッ！



オラオラオラ
オラオラ!!

エリート精子で何度でも妊娠させて
やるからね 妊娠したいだろう?

はいっ! 妊娠!
したいです!
させて下さいっ!

またイキそうなんだろう!?
子宮口が物欲しそうに亀頭に
吸い付いてるぞ!

イっ! イキますっ
イキますっ!!
イがせでくっだじやいっ!!

イッ! イッ! イッ! イッ! イッ!



オラ出すぞ！

子宮口開けろ！

エサだぞマンコ！

おおおおおお
おおおおおお
おおおおおお

ぶしやああああ！！

どびゅる るるる



ふー 出た出た キンタマからっぽだわ
ほれ ひり出してみせろ

はい…んっ

はーっ♡
はーっ♡

これからは私の家で飼ってやるから
毎日マンコ濡らして帰りを待つんだぞ
マンコ

うわきつたねエ…
まあいいやじや今すぐ
大学やめてきて
就職活動も全部キャンセルね

ブリーブリーブ…

ぶす！
ぶす！
ぶす！

ドロドロ…

はい…採用して下さい
ありがとうございます…
ご主人様…♡



数年後...

んっんっ

あっ♡あっ♡

ギョッ ギョッ

いい...ケツう...♡

ケツ穴あ...♡
ケツ好きい...♡

んっ
んっ

ブッブッ

ブッブッ

うーん もうケツ穴も
ゆるくなってきたなア…
オマエ そろそろクビにしよつか

そそんな…
私 もうご主人様のちんちん
無しじゃ生きていけません…♡

なんでもつつたつて
ユル穴便女のオマエに
何ができるってんだよ…

なんでもしますう♡
4人目めちゃんとオロしますう♡
だからあ…ここに…おちんちんの
おソバに置いて下さい♡

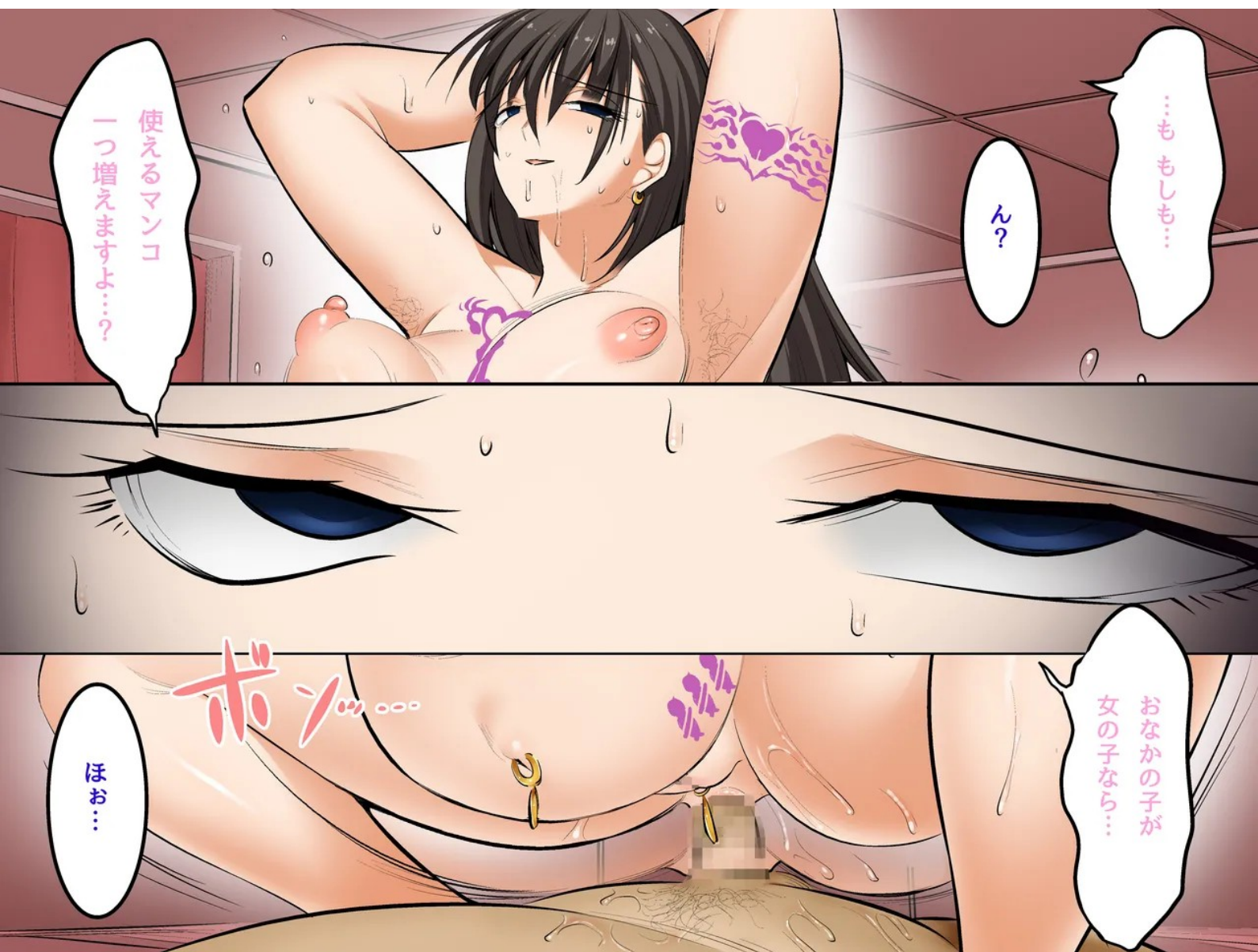
そそれは…

ハッ
ハッ

ギョッ
ギョッ

ブッ
ブッ

ブッ
ブッ



…ももしも…

ん？

使えるマンコ
一つ増えますよ…？

おなかの子が
女の子なら…

ほお…

ポン…

ははははは！
チンポに媚びる為に
娘まで差し出すか！

さいってーの
母親だな！！

いいだろっ産ませてやる！
親子二代で俺の便女になれ！

ぶっしん

ぶっしん

あああああ
あああ
あああ

あ

あ

あ

あ

あ





おい小便だ

はーっ♡

はーっ♡

はーっ♡

ふーっ♡

ふーっ♡

ふーっ♡

ふーっ♡

ふーっ♡

びく、びく、

はい…いつもの様に…
お使い下さい…♡



ふっふ 元気なマンコ産めよオ
オマエの目の前で娘の処女膜
破ってやるからな

ふっ
ふっ

じ

ば
ば
ば

ふっ...

あー
あ

あ、たかあ...

はい...

ごひゅいんしゃま...

ありあと...びます...

あたひ...

まんこになれて

しあわせです...



板場広し





俺は今とあるマンションの前にいる。

俺は社長にスカウトされベンチャーだった小さい会社に入った。そこで俺がやらされたのは気が遠くなるほどの大量の仕事。

社長はきつい仕事や難しい案件は全て自分に押し付け、成果だけ横取りし、

失敗などは全部俺のせいにしてきた。

会社はそれなりに大きくなったが俺はまだ平社員のままだ。俺は決めた。会社を辞める。

だがその前に、俺は社長に仕返しをすることを決めた。

俺はどんな仕返しをするか考えた。

そこで思い出した。

上場記念のパーティーに来ていた社長夫人の事を。

50の社長が伴っていたのは30代前半だろうが、女優と言われても誰もが納得するような美人だった。

俺は夫人を犯し、あわよくば自分の肉便器に

仕立て上げてやろうと画策したのだ。



入り口を入りオートロックで最上階の一室の番号を打つ。
何コール目かの呼び出し音の後に女性が応対した。

女「どちらさま？」

俺「社長の部下の田中です。社長に頼まれて書類を取りに来了した」

女「……聞いてないけど」

俺「連絡入ってませんでしたか？おかしいなあ……」

俺は嘘をついていた。社長に頼まれ物などしていない。

ピー

エントランスのドアが開いた。
夫人が開けたみたいだ。

ホッとして、広いエントランスを通り、
エレベーターに乗り、最上階の社長の部屋の前まで来る。
インターフォンを鳴らす。

ガチャ

夫人がドアを開ける。



女性が出てきた。
美人だ。

細身だが出るところは平均以上に出ている。
胸元が広めに開いている。
部屋着なのか着衣は薄手のものみたいだ。
ここに来るまでも心拍数は上がっていたが、
また特別な感情からか心拍数が跳ね上がる。

表情は俺をきつく睨んでいる。
少し不審に思っているみたいだ。当たり前だ。

俺「急にすみません」

夫人「さっき旦那に（社長）連絡したら
使いをよこしたって言ってた。あなたがそうね」

俺「そうなんです、夜分失礼します」

夫人「さっさと済ませて早く出って行って」

美人なのに気が強く強欲そうな女だ。
だからこそ犯しがいいがあるってものだ。





部屋に入る。

俺「すみません、明日朝までに終わらせないと
まずいですよ」

夫人「そんなの知らないわ。
あの人の部屋に入るのは私でも禁止されてるのよ、わかってる」

俺「はい、それはそれは申し訳ありません(知るかよ)」

目の前を歩く彼女の後ろ姿。
肉付きのいい尻が小さく左右に振れている。
(このケツを社長(ヤツ)は独り占めしているか)
欲望と羨望が同時に湧いてくる。

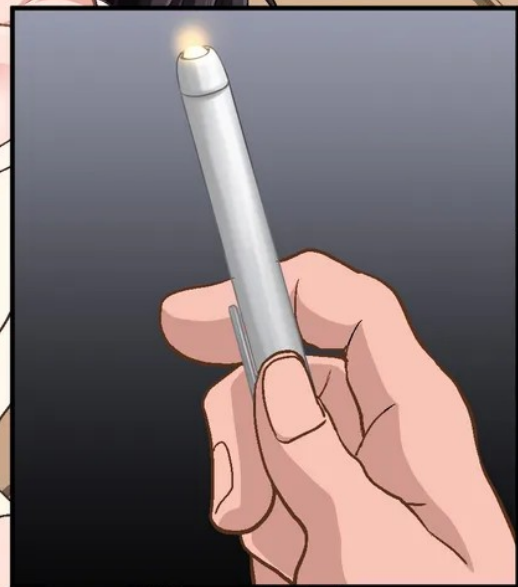
夫人「この部屋よ」

俺「奥さん、ちょっとこれを見てもうえませんか？」

俺はポケットからペンライトみたいな道具を出し、
夫人の顔の前に持って行った。

夫人「……何？」

俺「光を見てください」





夫人「なんのつもり？」

俺「あれ？きいてない？」

ネットで見つけた

「誰でも簡単催眠術の方法」

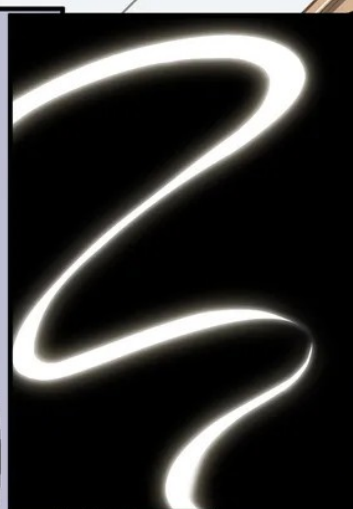
だいぶ奮発して購入したのに効いてないだろ？
これだからユーザーレビューはあてにならない……くそ、
どうすれば……

夫人「……………」

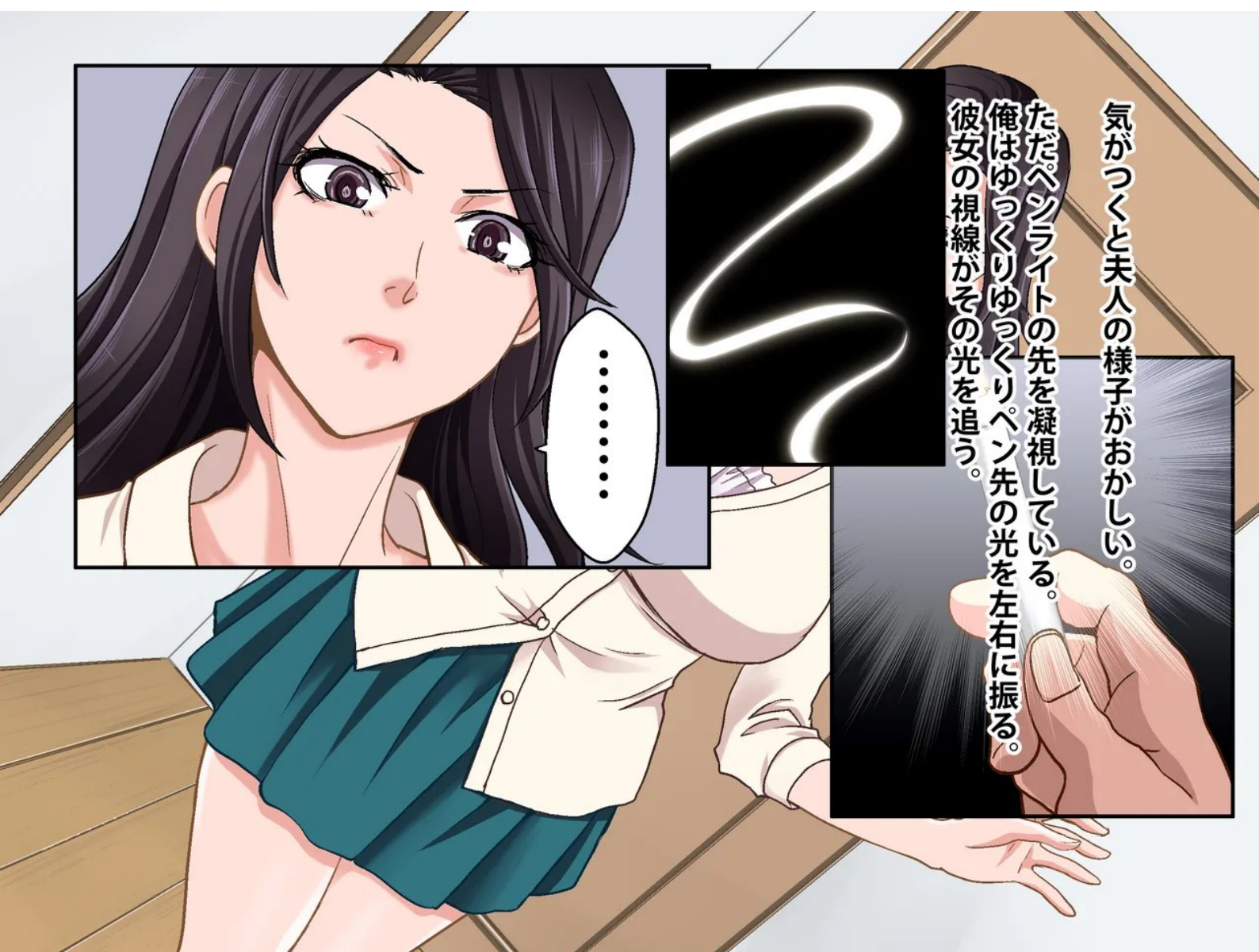


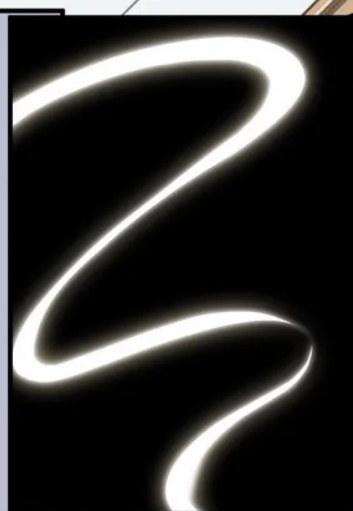
気がつくとも夫人の様子がおかしい。

ただペンライトの先を凝視している。
俺はゆっくりゆっくりペン先の光を左右に振る。
彼女の視線がその光を追う。



.....





彼女の瞼が少しずつ緩んでいくのがわかる。
(効いてる!!)
彼女は俺の催眠術にかかった!





俺「服、脱いで」

夫人に命令する。

夫人「はい」

彼女は素直に上着を脱いだ。

服の上からでもわかるほどのふくよかな胸は想像以上に白く透き通っている。

彼女の表情は完全に弛緩して、瞳は光を追っている。

俺「喉が渴いた。お茶が飲みたいな」

夫人「はい…今入れます」

広いリビングのソファに腰を下ろし夫人の入れたお茶を飲む。彼女はお茶を飲む俺を見ながら戸惑ってる。





彼女は俺の目の前で脚を開き股間をまさぐっている。
催眠中の彼女は命令には素直に従っている。

俺「下着とって」

夫人「はい」

後ろ手に回しブラを外すと想像以上に大きな胸の全貌が現れた。



トン

俺は彼女の胸を人差し指で突く。
一瞬彼女の動きが止まる。

夫人「!?」

夫人「何!?あなた何をしたの!?」

夫人「あ、あなた、ここで何をしているの!」

書類を取りに来たんじゃないの!?」

俺「あ、それ、嘘です。俺、奥さんを犯しに来ました」

夫人「な、なにいつてるの!旦那に連絡するわ!」



トン

もう一度彼女の胸を人差し指で突く。

俺「次はショーツも脱いで」

夫人「はい」

彼女はまた催眠状態になり、素直にショーツを脱いだ。
この催眠は特有の合図で
催眠状態に入れたり解いたりすることが
容易なのだ。



ショーツを脱いだ下半身は肌と対照的に
黒い毛がもさもさと生えている。

俺「マシヨ広げて見せてみて」

頷きソファに座りながら股間を前に出し指で陰部を広げ、
陰毛の中にあるピンク色の肉襞を露わにする。
俺「そのまま指を突っ込んでオナニーして」

彼女は俺の言われた通りにオナニーを始めた。





俺「自分でちゃんと気持ち良くなるんだぞ」

「あっ」

「はっ」

「んっ」

んっ

んっ

んっ

んっ

小さな声を発しながら
彼女は自分の陰部を愛撫している。
彼女のいやらしい汁が溢れてくる。
クチュクチュと股間を刺激する指の音が
大きくなっていく。

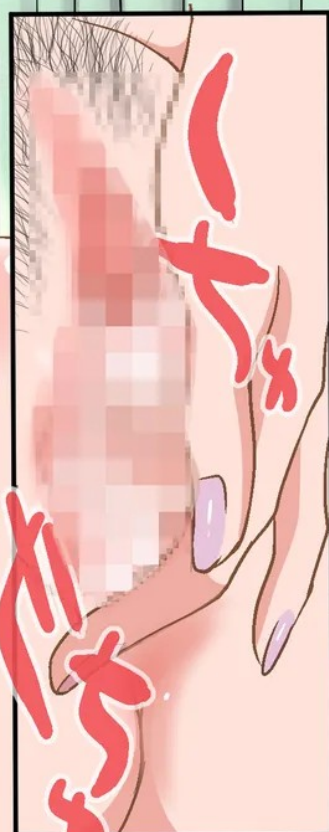




俺「思う存分気持ちよくないでいいんだぞ」

夫人「ふああい」

力の抜けた返事が返ってくる。
彼女はオナニーに没頭してしまったようだ。



ここで一瞬だけ催眠を解く。

夫人「!?」

戸惑いの表情を見せる彼女。
今自分に何が起こっているのか
必死で理解しようとしているようだ。

俺「ダメだよ、手は止めないで。オナニーは続けて」



夫人「あなた私に何をしたの!!」

俺「ただの催眠術ですよ。気持ちいいでしょ?」

夫人「催眠術って...そんな馬鹿な話あるわけが...ない...」



俺「無理しなくていいですよ。好きなだけオマ○いじってくださいよ」

夫人「...なんで...なんで手が止まらないの...」





押し寄せる快感に必死で抵抗している。

頭ははつきりしているのに身体がきかない。
彼女は恨めしそうに俺を睨んでいる。





俺「無理は身体に良くないですよ。
はい、どうぞ」

熱く汗ばんだ彼女の身体に触れ、
催眠を促す。

ムムムムムム

はぁん

彼女は快樂のまま指を激しく動かし始めた。
俺「本気イキしてくださいね」

はぁん

ムムムム

ムムムム



俺「ちゃんとイきましたか？」

夫人「ふああああい」

夫人の股間は汁でぐしょぐしょだ。
顔も涙と汗、涎鼻水とどうしようもない。
つい数分前の彼女とは思えない。
指はまだ股間を掻き回している。

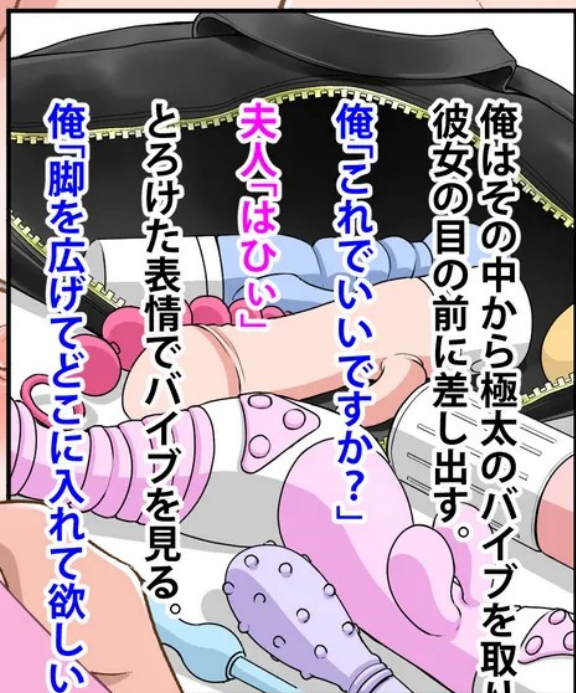
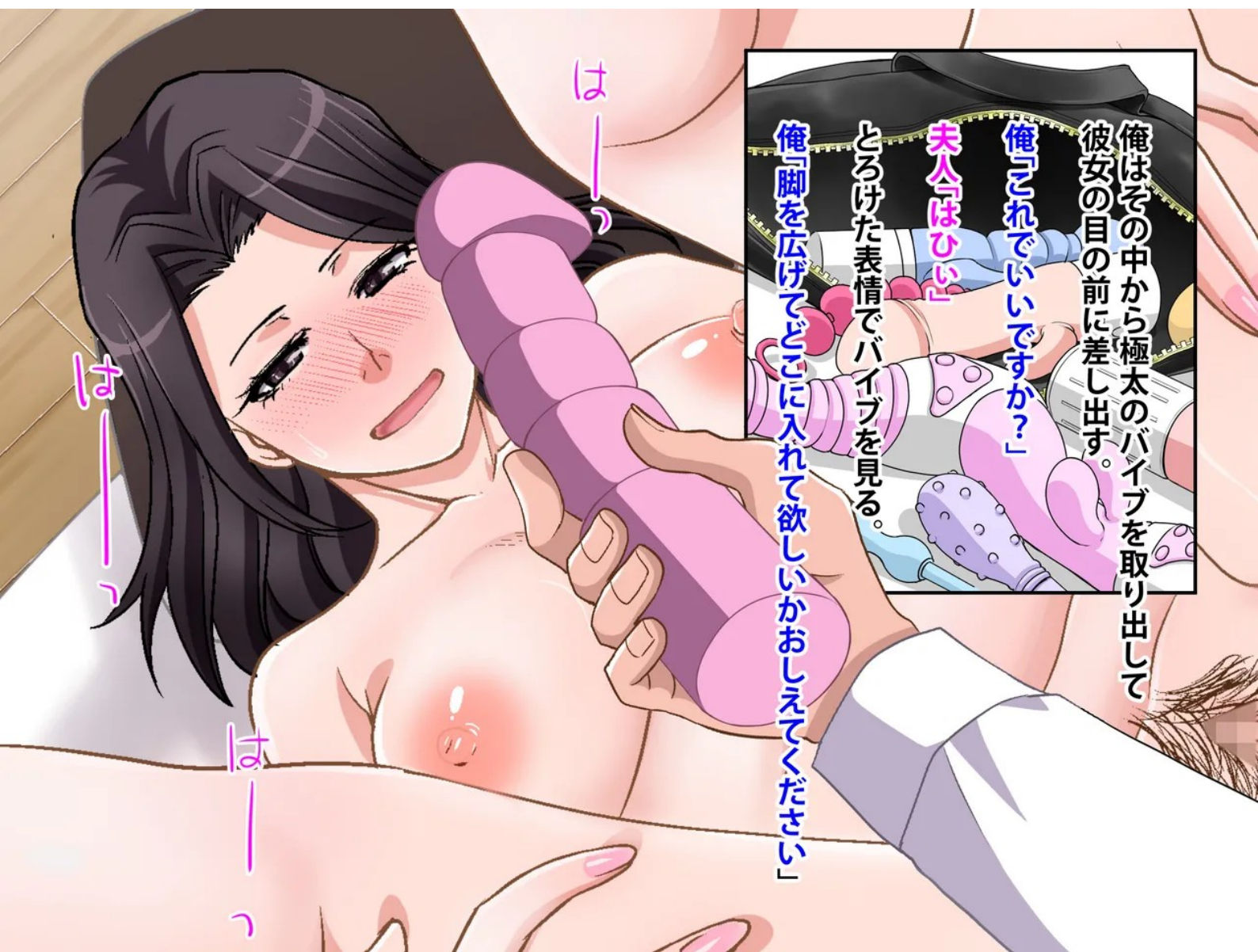




俺「奥さん、指だけで満足できないでしょ。
俺、良い物持ってきてるんです」

持ってきたバックを開ける。
中にはアダルトグッズが大量に入っている。

俺「どれがお好みですかね」



俺はぞの中から極太のバイブを取り出して
彼女の目の前に差し出す。

俺「これでいいですか？」

夫人「はい」

とろけた表情でバイブを見る。

俺「脚を広げてどこに入れて欲しいかおしえてください」



俺「奥さん、ちゃんとお願いしないと入れてあげませんよ」

夫人「……」

俺「欲しいんですよ。このブッ太いバイブが欲しいんですよ」

夫人「……」

わたしのオマコリ
……おたいバイブ
……おたいバイブ……

は——っ

お願いします
……早く……

は——っ

は——っ

は——っ









俺は手を止め彼女の催眠を解く。

ふたっ

何よこれ？
どういふ事かい？

あーた
何をいってるの
おかしな事よ！



俺の勃起したチンポを彼女の顔に押し当てる。
彼女は抵抗したくても身体に力が入らないのか、
俺に頭をつかまれても
身動きできないでいる。

お願い
します...

俺「奥さんを見てたら興奮してきちゃって。

奥さん、俺のちんぽしゃぶってよ」

夫人「何バカなこと言っているの!?!お願い、止めて」

俺「しゃぶれよ」

彼女の動きが止まる。
そのまま俺はちんぽを彼女の口にくわえさせる。





ジユポジユポと卑猥な音を立てながら
吸い込み、ヨダレで自分の口元をベトベトにしていく。

俺「口だけでするんだ」

俺は彼女の頭を押さえつけ、
ちんぽの根元まで喉の奥に送り込む。



彼女の股間にはまだバイブが突き刺さったままだ。
抜けてしまおうとかわいそうだ。俺はバイブを掴み、
彼女の中に深々と押し込んだ。





ガッ

俺のちんぽを加えている彼女を見て
(オナホールみたいだな。
まあ、これから生オナホールになるのだけれどな)

と考え、思わず笑みがこぼれる。
彼女の頭を思うように振りちんぽをしごく。

俺「ああっ、いく、いくっ、出るー!」

彼女の頭を押さえながら激しいイラマチオ。



苦しがつている彼女を俺は気にせず、
ちんぽを喉の奥の気持ちいいところまで挿入。
涙目になっている彼女。
口からはヨダレが噴き出している。





その瞬間彼女が正気の戻る。
俺は涙とヨダレでぐしょぐしょな彼女
鼻からも逆流した精子が噴き出している。

呼吸が苦しかったという事と、
思考が追いつかないことで、彼女の抵抗はなくなっていた。

夫人「もうやめて…許して…帰って…」

俺はまた彼女を催眠に戻す。

催眠状態の彼女はとても素直だ。

俺「奥さん、次は何をしてほしいんですか？」

夫人「あなたのチンポがほしいです」

俺「どこに欲しいか自分で払げて見せてください」

夫人「はうい」

彼女の赤く肉厚なマンコからは汁が溢れている。
よく見ると小さく痙攣をしているようで、
肉ヒダがプルプルと小刻みに震えている。

俺「犯してほしいんですか？」

夫人「はい、犯して欲しいです」

俺「どうしても？」

夫人「はい、犯して……」



あぁあ

そう言い終わる前に
彼女のマンコに自分のチンポを
ねじ込む。
熱い肉の軽い抵抗を感じたあとは、
彼女の身体はすなりと奥まで
俺を受け入れた。

んんん





俺の腰振りの勢いが強くなっていく。
彼女は感じている。いや、感じすぎているのかもしれない。
俺はそんな彼女にチンポを突きたてる。
彼女は自分の胸を揉みだす。



いはい
突いてえ♡

ももこ
ももこ♡

大和の
お嬢様♡



奥さん、俺のは旦那と比べて
どうだい。
どっちが気持ちいい？

あなたの方がいい…
ですう…気持ちいい…
はぁあああ



ああ、
いい感じ

はい、嬉しいです
肉便器にしてください
ありがとうございます

じゃあ、これから奥さんは
俺の肉便器にしてやるから
うれしいだろ。感謝しろ

あ、
う

むぎ

ぐふ

が

が

が



ちゅっ

あーあー
うんうん

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ

キミに
うんうん
うんうん

もっ
うんうん
うんうん



はい♡

奥さん
入ってるの
見える？

ああああ
ああ、♡

丸見え
ですわう、

グ
グ

グ
グ

グ
グ









俺「奥さんイキ過ぎだよ、
何回イけば気が済むのかな。
きれいな顔して変態なくらい
スケベな女ですね」

夫人「はひい…私はあ…スケベ…女ですう…」

俺「仕方ないなあ、このまま俺もイカせてもらおうかな。
その前に
催眠を解いておこう」

夫人「!?」

はーっ

はーっ

はーっ

はーっ

はーっ

はーっ

ひく



「……」

あー

「あれ…私…何してるの…かしら」

あー

「身体が痺れて…動かない…」

あー

「目の前にいる…あなた…誰？なにをしてるの？」

あー



「……………どうして私は裸なの？」

「奥さんのマンコ、マジ気持ちいいですねえ。
俺またイキそうですよ」

「何してるの!?ちよつと……
夢……じゃないわよね……」

「なんで!?セックス?ちょっとあなた!」
「自分が何をしているかわかっているの!?!」

「催眠がききすぎて記憶が混乱しているみたい。大丈夫かな…」

「催眠…あ!思い出した!あなた…!」

「思い出しましたか。よかった!」

「早く離れて!」

「どうしてですか?先ほどあなたは俺の肉便器になったんですよ」

「肉便…なによ!勝手に!早くどいてよ!」

「すみません、奥さんの顔見てたらまたイキたくなってしまつて」

「!?!」

ズッ

ズッ

ズッ



「やめて、抜いて、今日はダメ危険日なの！
赤ちゃんできちゃうからあ!!!」

「そうなんだ、じゃあ尚更中出し必至だね。
俺の子供産んで社長に育てさせよう」

「鬼畜!」





俺「奥さん、イキました？」

夫人「はああああい」

俺「赤ちゃんできちゃいますかね？」

夫人「赤ちゃん…できちゃうかもお…」

これだけ中出ししちゃったらできてもおかしくないか。
そのときは便器妊婦として使うだけだ。
愛液と精子でグチャグチャになった彼女のマンコから
チンポを抜く。



俺「このまま膣内に俺の精子を入れて服を着て。
俺が出て行ったら今までの事は忘れる、いいね」

夫人「はい...」



何事もなかったように送り出される俺。
見送る彼女。

俺「またきますね。」

夫人「はい、お疲れ様でした…」

俺「あ、あと一つお願いが」

夫人「？」

彼女の耳元で囁く。

俺「俺がセックスしたいと言ったら
どこでも犯らせる」

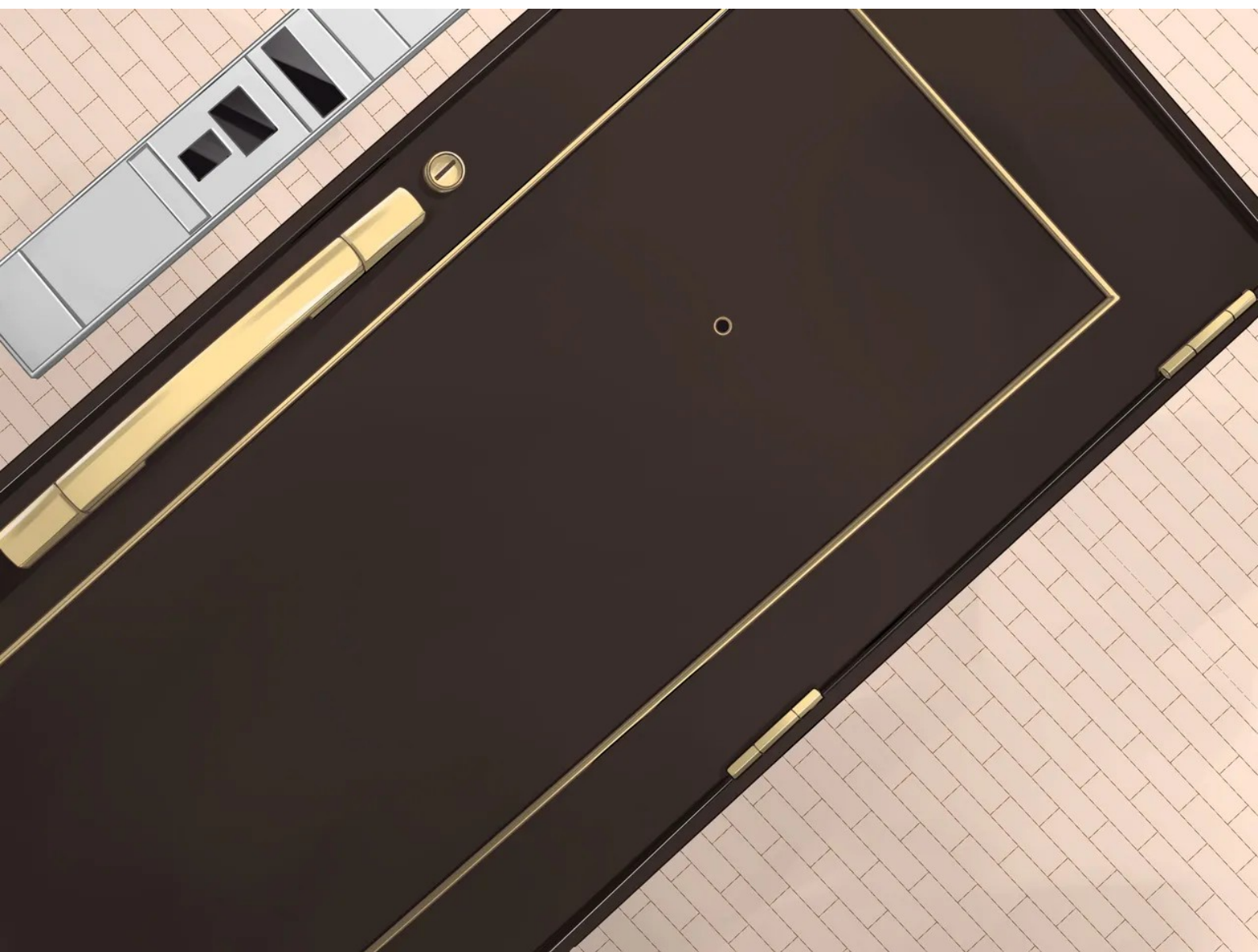
夫人「……はい」

にこりと微笑む彼女。

彼女には催眠をかけたままだ。

俺「また来ますね、
今日はおじゃまりました」

俺はマンションを出ていく。





よこやまなおき



催眠コンビニへようこそ！
ファミリーメーカー

ここは都内の住宅地にある、とあるコンビニ『ファミリーメーカー』

駅前から少し離れているが、周りに競合店もなければスーパーも無いので
かなり繁盛しているコンビニである。つまりお客にとっては便利だが…

「店員にとっては地獄のような
忙しさってコトだよお…
チクショウが」





「店員にとっては地獄のような
忙しさってコトだよお…
チクショウが」

俺の名前は 加藤鷹作(かとうたかさく)
脂が全身にまわった50歳のオッサンだ、体重も100kgちょうど、魅惑のメタボボディ。
このクソったれなコンビニ『ファミリーメーカー』の店長をしている。

「店長」といえば響きは良いが、ただの雇われ店長だ。去年までは
サラリーマンをしてたが不況の煽りを受け見事にリストラ、その後は
いろんなバイトをして、そして流れついたのがこのコンビニの店長ってワケだ。

店長のクセに給料は激安、そのうえ殺人的な忙しさ。
上の命令と下の面倒、その板挟みでストレスがマッハ。
おかげで胃に穴が空いて、頭皮の毛が逃避したってか、やかましいわ。

誰もこんな仕事やりたくない、奴隷のような生活。
だからこそ俺みたいなクズ野郎のオヤジが雇われた。

「だけどこんな仕事にも、良いトコロがあるんだあ…
じゃないとやってらんねえぜ…」

コンビニってトコは、何でも置いてある。
って事はいろんな客が来るってワケだ。
千差万別、老若男女。ピチピチの若い学生から、疲れた社会人、
今にもくたばりそうな老人もな。

「そして俺みたいな醜いオッサンもいれば、アイドルみたいな
美少女も来るんだあ…ブヒヒ…」

そして、俺はとんでもない『武器』を持っている。

コレはバイトを転々としてた時に
とある学生から貰ったモンなんだが…

それは…





その時、店の自動ドアが開き、軽快な入店音が鳴った。

入ってきたのは懐かしい雰囲気の学生服を着た、
小柄の女子学生。
日本人形を彷彿とさせる和な佇まい。
何より、ものすごい美少女だ。



「いらっしゃいませ、
こんばんわー」

営業スマイルで声をかける俺、この瞬間は「笑顔がステキなデブ店長」だ。
世の中を渡っていくには愛想ってモンが必要、たとえ擬態だとしてもな。

この少女は最近、1か月前くらいから店に来るようになった子だ。
どうやら学校が始まって、その通学路にこの店があるのだろう。
3日に1回くらい訪れて、お茶やサンドイッチ、文房具、雑誌なんかを買っていく。

夜に来るのは初めてだ、時刻はもう夜の10時過ぎだというのに。
雑誌コーナーをウロウロしている、欲しい本が入荷しているか確認してる様子だ。

『こりゃあ…チャンスじゃねえか？ブヒヒ…
待ってたぜ、この瞬間(とき)をよお…』

カチリ、カチリ…。

こっそりと店の外の電気を消し、自動ドアもOFFにする。
幸い店内にはこの娘と俺以外、誰も居ない。
もうこれで邪魔者は入って来ないってワケだ。

このコンビニ『ファミリーメーカー』はなんと”23時間”営業。
その空白の1時間で何をやっているかというと…。





「お客様、少々よろしいでしょうか？」

「…え？はっはい！何ですか？」

急に声をかけたので驚いている、それにしても可愛い声だ。
身体が小さいせいか、幼女みたいな声をしてやがる。

「防犯カメラを見ておりましたところ…
少々気になる点がございまして。
少し事務所の方まで来て頂けませんか？」

「……えっ！？」

あくまで笑顔のまま優しく声をかける。
ここで怖がらせてはいけない。

「ぼっ防犯カメラ…？わっ…私何もしてないですけど…
本を眺めてただけですけど…どうして…？その…」

店員から自分に万引きの疑いがかけられている、
こういった事態になるとは思っていなかったのだろう、
ちょっとパニックっている。

「少しカバンの中を確認させて頂きたいだけで…
いえ、お時間は取らせません。」

「何もないければ、警察も呼びませんし…」

『警察』という言葉にビクッと反応する。
こう言うのだいたいとは…

「は…はい。わかりました…」

このまま逃げたりしたら、自分が何か盗ったと言うようなものだ。
間違いなく本人は何も盗ってないのだから、付いていくのに問題はない。

「ご協力、ありがとうございます。ではこちらへ…」



「……？」

少女は不思議そうな目で部屋を見回している。
そりゃそうだ。
「事務所まで付いて来てくれ」と言ったのに
通されたのは他に何もない、布団だけが敷かれた和室。
まさかこんな処に連れてこられるとは思ってなかっただろう。

「あの…カバンの中を見せれば良いんですよね？
私は何も…」

「その前にお客様、
こちらをご覧くださいませんか？」



俺は手にしたスマホの画面を少女に向ける。

「？」

訝しげな表情で、それを見つめる少女。

俺の側からは見えないが、現在スマホの画面には
不思議な文字と数字の羅列が次々と表示され、
人間には聞き取れないレベルの高周波の音が響いている。

そしてそれを眺めている少女は徐々に…



『……………』

少女の手からカバンが落ちる。

そして瞳がうつろになっていき、
焦点が定まっていけないような表情になる。

まるで真夜中に半覚醒して、
寝ているのか起きているのか
わからない状態のような。

そう、これはまさに

「催眠」にかかった状態だ。

「お客様…お客様？」

『……………』

話しかけても反応しない。
無事に催眠にかかったようである。



「ブヒヒ…いけないねえ。キミみたいな美少女が
こんなオッサンに付いてきちゃあ…」

コレが俺の持っている最強の「武器」。
催眠アプリ『セイレーン』

半年前くらいに出会った「コーヘー」とかいう
バイト仲間のガキがくれたんだ。
リストラされた俺が可哀想だからってな、
当時は大きなお世話だと思ったが。

しかしこの催眠アプリが、これまた本当に効くんだ。
何故か男には殆ど効かないが、
女はかなりの確率で催眠状態にできる。

「まあ詳しくは『セイレーン』で検索してくれよな。
単行本を購入してくれたら嬉しいぜ…」

さて、本の宣伝なんて
どうでもよくて、
こっちの方を
楽しまなきゃなあ…

俺は部屋の照明を上げて、セットしていた
ビデオカメラの録画を開始する。

ここは元々は忙しい従業員のための
仮眠室だったのだが現在は改造して俺だけの
「やり部屋」となっている。

んじやお嬢ちゃん、
まずは名前を
教えてくれるかな？

通ってる学校とか、
学年とかいろいろ

じゅうじゅうじ
十条寺 絢 あや

三葉女子学園の…
1年生で…
剣道部で…

ん？
十条寺ってまさか…

あの向こうにある山の
手前にある大きな屋敷の
十条寺さんの家かい？

ここ一帯を仕切る
すっごいお金持ちって噂の…

ポ

……はっ……

おやまあなんと、良いトコロのお嬢様だ。
立ち振る舞いから普通のコじゃないと
思っていたが…。

これは思わぬレアな獲物がかかったようだ。
きつと今頃、お屋敷の方ではお嬢様がなかなか
帰ってこないと心配しているだろう。

まあ…インタビューは
このあたりでいいか…
時間もないしな…

表の店の都合もあるし、
この『セイレーン』による催眠も
個人差があつてかかり方が薄いと
1時間もかからないのだ。
急ぐ必要がある。

じゃあ絢ちゃん、
上の制服と
スカートをめくって…
下着もブラして…
おっぱいとおまんこを
見せるんだ…

……はじ……

そう『命令』すると、催眠にかかった彼女は
何の躊躇もなく、素直に服を脱ぎ、
己の恥部を晒す。

まるで主人に従う奴隷のような従順さで。

ブヒヒ…!
良いコだね

しっかりと
撮影してあげるよお…

俺はお嬢様の未熟な
おっぱいとおまんこに興奮して
それを必死に手元の
デジタルカメラで撮影していく。
もちろんコレも最高級カメラだ。

撮影した写真は
俺の夜のオカズにもなるし、
いざとなった時に取り引きの
材料としても使えるだろう。

いっぱい撮影しておいて
損はないよな
ブヒヒ…

おふう…
もう、限界だあ…
ブツヒイイ

カジャ

カジャ

カジャ

俺は絢ちゃんのその可憐な
クチビルにむしゃぶりとつく。

俺の臭いクチを思いっきり重ねて、
苦しそうにしている絢ちゃん。
それを無視して顔じゆうをねぶりまわす、
まるで餌に喰い付く豚のように。

それと同時に、
小振りなおっぱいを揉み、
もう片手でおまんこのすじをなぞる。

クチビルに俺の舌が当たるたびに、
乳首に指が触れるたびに
絢ちゃんはビクリと震える。



おまんこの中に指をヌルリと入れてやる。
カラダが小さいのもあるせいかな、
ギューギューに締め付けてきやがる、
こりゃあ良いまんこだ。

その指を軽く抜き挿ししてやると、
中がジワリと濡れてくる。

ブヒヒ…
絢ちゃんも準備が
出来てきたみたい
だねえ…

俺の方とはつづくに
準備できてるから
繋がっちゃうかあ…



絢ちゃんを汚い布団の上に
四つん這いにさせる。

ちゃんとビデオカメラの
位置を考えて
大事な部分が写るように。

カッパ

カンパ

カンパ

プヒヒイ…
絢ちゃんのおまんこも
お尻の穴も…

恥ずかしいトコロが
ぜんぶ
写っちゃってるよお…

恥ずかしいよね？
絢ちゃん

コレすっごく
恥ずかしいよね？

……はい…

恥ずかしい…
です…

催眠にかかっているにも
顔を真っ赤にしてこちらに
答える絢ちゃん。
そんなに俺は興奮する。

ブヒヒイ
じゃあ
いったきまうす

もちろん処女だったのだろ
ミチミチと音をたてて
俺のチンコが
絢ちゃんのおまんこに
刺さっていく。

相当キツイ締め付けだが、
構わず強引にチンコを
捻じ込んでいく。

おうっ...!
おふう!
こりや...
スゴイぞお...!

剣道部に所属してるって言うてたし、
下半身の力の入れ方も相当なモノだ。
その締め付けの強さも相まって
極上の快楽をチンコで味わう。

はああ...
やっぱ運動してる娘の
ブマシコはたまらんなあ...
ブヒヒイ...



そのまま快樂に身を委ね、
思いつき腰を激しく動かす。

催眠がかかっているせいか
絢ちゃんも痛がっているが
大きな声は出さない。

本当は大声で
泣き叫びたいだろうが、
深い催眠がそうはさせない。

はああ…
絢ちゃんのおまんこ
気持ちイイよお…
コレがお嬢様のおまんこかあ…

確かに
そこらへんの
女とは違う

なんだか上品な
感じがするよお
ブヒヒイ…



うわー！
うわー！
うわー！

？

その時、店の外からパトカーのサイレンの音が聴こえた。

それは店の前を通り過ぎ、向こうの山の方へと向かっていくようだった。

ブヒヒ…
もしかして

絢ちゃんのお屋敷が
帰りが遅いからって
通報したのかもしれないね…

もしかすると
不審者に
捕まっていたり
なんかして

それで
エロいこと
されてたりしたら
大変だよね…

はぁ…

はぁ…

はぁ…

ここ一帯の地主のお嬢様だ
警察がすぐに動いても
おかしくはない。

ヌプ…
ヌプ…

ニョプ…
ニョプ…



フウッ！
この金持ちの
お嬢様がっ！

俺たち貧乏人を
見下しやがって！

コレでもくらえっ
オラッ！

貧乏人の俺の
チンコを

マンコで
食らえっ！

貧乏人の情けない謎の怒りが
こみ上げてきたので
そのまま目の前の少女に
腰の動きと共に
ぶつけていく。

そうすると
怒りと一緒に股間の
興奮もこみ上げてくる。



ああっ！
イクよっ
絢ちゃん！

お嬢様の高貴な
おまんこにつ！

貧乏人でダメ人間の
オッサンの精子を
いっばい
出しちやうよっ！

いいよねっ！
このまま思いつき
中出ししてもっ！

ズ
ブ
ッ

ジ
ュ
ッ

ズ
パ
ン

ジ
ュ
ッ

ズ
ッ
ッ

ズ
ブ
ッ

ズ
ッ
ッ

あっ！

あっ

ははっ！
ははっ！

ビ
ン
ッ

ビ
ン
ッ

ビ
ン
ッ



はうっ…
おううっ
あああ…!

思いつき腰を
奥までぶつけて、
そのまま精液を
大量に吐き出す。

きつ…
キモチイイ
ブヒイ

こういう時のために、
オナニーせずに10日は
溜めていた特濃ザーメンだ。

絢ちゃんも
危険日だっ
妊娠確定の
濃さである

…っ!?

あ…っ?
…っ…

ああ…
絢ちゃん
の子宮に
俺の種が
注がれて
るよ…





わかるかい？
オジサンの精液が

絢ちゃんのナカで
暴れてるの…

ああ…
オジサンの欲望…
全部受け止めてねえ…

オジサンの
汚いザーメン
ぜーんぶ絢ちゃん
の子宮に

プレゼントして
あげるからあ…
ブッヒイイ…

10日間キンタマに
溜まってたザーメンを
最後の一滴まで絞り出す。

無抵抗の美少女に
本能のまま思いつき
種付け射精をする、

わわ…
わかりますう…

はい…は…

は…

そのあまりの
気持ち良さに
俺のカラダが
ブルブルと震えた。

はい
じゃあ絢ちゃん
そのまま
こっち向いて

はい…

んじゃ
教えたとおりに
カメラに向かって
どうぞー

彼女に股を開かせ、
カメラの近くへ誘導する。
しっかりと
顔とおまんこが
写るように。

コレはいつもの
『攻略記念撮影』だ。

じゅ…十条寺絢です…
す…ステキなおジサマの
鷹作さまに…

お…犯して
いただきました…
鷹作さまの
精液で…

いっぱい…
種付けして
もらいました…

あ…
ありがとう
ございます…

うーん
いいね
いいね

トロ…♡

…つと
おっとコレを
忘れてた

絢ちゃんの手前に
生徒手帳を置く。

これで間違いなく
現役の女子学生を
攻略したという証拠だ。

ゲスな達成感が
俺の胸と股間に
こみ上げる。

まあ釣りでいうトロコの
『魚拓』みたいなモンだ
一生の記念になる。

んじゃその
種付けされた
絢まんこは

今どうなってるの
かなあ？

オジサンに
しっかりと
見せてくれる
かな？



そう言うとお嬢ちゃんは
自分のおまんこを
拡げて見て見た。

中からドロリと
ザーメンがあふれる、

さつき俺が
射精したばかりの。

…は
はい…

どうぞ…

ああ
いいねえ

股間に
ギューンギューン
くるねえ

さつき出した
ばかりなのに
また犯したく
なるよお

そう言いながら、
俺は夢中で
デジタルカメラの
シャッターを切る。

金持ちお嬢様のまんこから
俺の汚い精液が
流れ出ている光景なんて
これ以上ない貴重なお宝。
最高のプリネタだ。



ああ…

こんなに濃いのを
大事なおまんこにいつぱい
出されちゃったね…

これはもう
妊娠したら俺の子を
産まなきゃ
いけないね

絢ちゃん…

はい…

催眠にかかった彼女は、
虚ろな目のまま
返事をする。

きつと孕んだら、
本当に俺の子を
産んでくれるだろう。

ブヒヒ…
当たると
いいなあ…





「……………」

「…っ！…あれ？」

ふっ、と気付くと、
私は雑誌コーナーの前で立ち読みをしていた。
夢中になって読んでいたのか、
記憶がぼんやりとしている。
普段、立ち読みなんて
あんまりしないのに…。

「……っ！？え？
うそっ、もうこんな時間？」

時刻は深夜0時をもう回っていた。
携帯の着信には10件以上、
親からの履歴が残っている。

今までまったく
気付かなかったなんて…。

「うわっ…どうしよう…！
怒られちゃう…」

少女は急いで店の外に出て行った。

「ありがとうございました〜…
またのご来店を…ブヒヒ…」

お客様に深く一礼をする。
貴重な写真や映像を撮らせてもらい、
何よりも大切な処女を俺みたいな
汚いオッサンに捧げてくれた、
大切な『お客様』なのだ。

「まあ…その本人はこの1時間ずっと
立ち読みしてたって記憶しかないように
催眠をかけておいたからなあ…ブヒヒ…」

「本人が知らないうちに、子宮には
俺の精液がタプタプと溜まってる…
たまらねえじゃねえか…まったく
催眠アプリ様々だぜ…ブヒヒ…」

絢ちゃん、確かまだ1年生って言ってたな
ってコトはこれから3年間、
この店に何度も来るってコトだよなあ…
楽しみだあ…。

「でもまあ先に妊娠しちゃって、
学校に行けなくなるだろうがな…ブヒッw」

「さて…俺の子を孕んでくれる、
次の『お客様』を待とうじゃねえか…なあ」

そして
また軽快な入店音が
コンビニ店内に響く。

「いらっしゃいませ～、
『ファミリーマート』へようこそ…
ブヒヒ…」





END



…倉田先生ご用ってなんですか？
生徒会の仕事があるので手短にお願いします

(2年A組 西澤梨央菜 俺の事を嫌ってるのを
隠そうともしない生意気な生徒だ…)
おう悪いなちよつとこいつを見てくれるか



(ネットで見つけた怪しげな「催眠アプリ」
ライトの点滅と特殊な音で対象を自由に操れる催眠状態にするらしい
嘘かホントかわからんがこいつで試してやる)





...

カキヤッ

ホ

...西澤?
おい西澤?

...おいおい本当か?

おいしい西澤 大丈夫か？ん？
抵抗しないとエロい事しちまうぞ？

…どうやら本当に効いてるみたいだな
半信半疑だったがこいつはイイぜ



おっしますなごに跪け

…はい

おおいつもの反抗的な態度が
嘘みたいに素直だねえ♪





（…まだ抵抗する意識があるのか
単に経験の少なさ故か動きがぎこちないな…
これはこれで悪くないが…）

おい 俺は「しゃぶれ」って言ったんだぜ
チロチロ舐めてないでしっかり啜えな



おお…そうだ
やれば出来るじゃねえか

ズッ
ズッ
ズッ

あのクソ生意気な西澤が
必死に俺のチンポしゃぶってるとか
たまんねえぜ



あーいいぞ
さすが優等生だな
フェラの上達も早い

あ…ありがとう…





ぽろぽろ

あー!

よしイクぞっ
口開けてしっかり受け止めるよ

フコ

フコ

フコ





チンポ綺麗に掃除できたら
生徒会の仕事に行っていぞ

はい…っ

ドロォ…

ふっっ

こりゃあイイぜ

これからもたっぷり楽しませてもらおうか

―後日―

…先生 何ですか？
わたしこれから体育の授業が…

ああ すまんな
すぐ済む



…今日の体育は特別授業だ
俺とお前の二人だけでな

…はい 倉田先生

よし こっちにきて上になれ

ホ





ハハハハハハハハハハ

今日がマンロジちゃんを
こっぴどいからな

あ...あ...あ...あ...



んっ んんっ…

いいぞ そのまま腰を下ろせ
あと少しで根本まで入るぞ

んぐっ

ぽっ

ぽっ

っ んんんん…っ

フッ
フッ
♡



手伝ってやるよ

グッ

そらっ

根本までハマったぞ

腰を振ってチンポしごけ

あっ

~~~~~

むっ 無理ですっ

ズ

ズ

ズ



仕方ないな  
ほらこうやって腰を振って  
チンポとマンコを  
擦り合わせるんだ

あつ

オマンコ  
気持ちいいだろ？

47

あああああつ

きつ きもちいいですっ





ふう…

マンコも優秀だな

たっぷり搾り取られちゃった

あっ ありがとうございます♡

明日は水着を来て放課後  
俺の所に来い



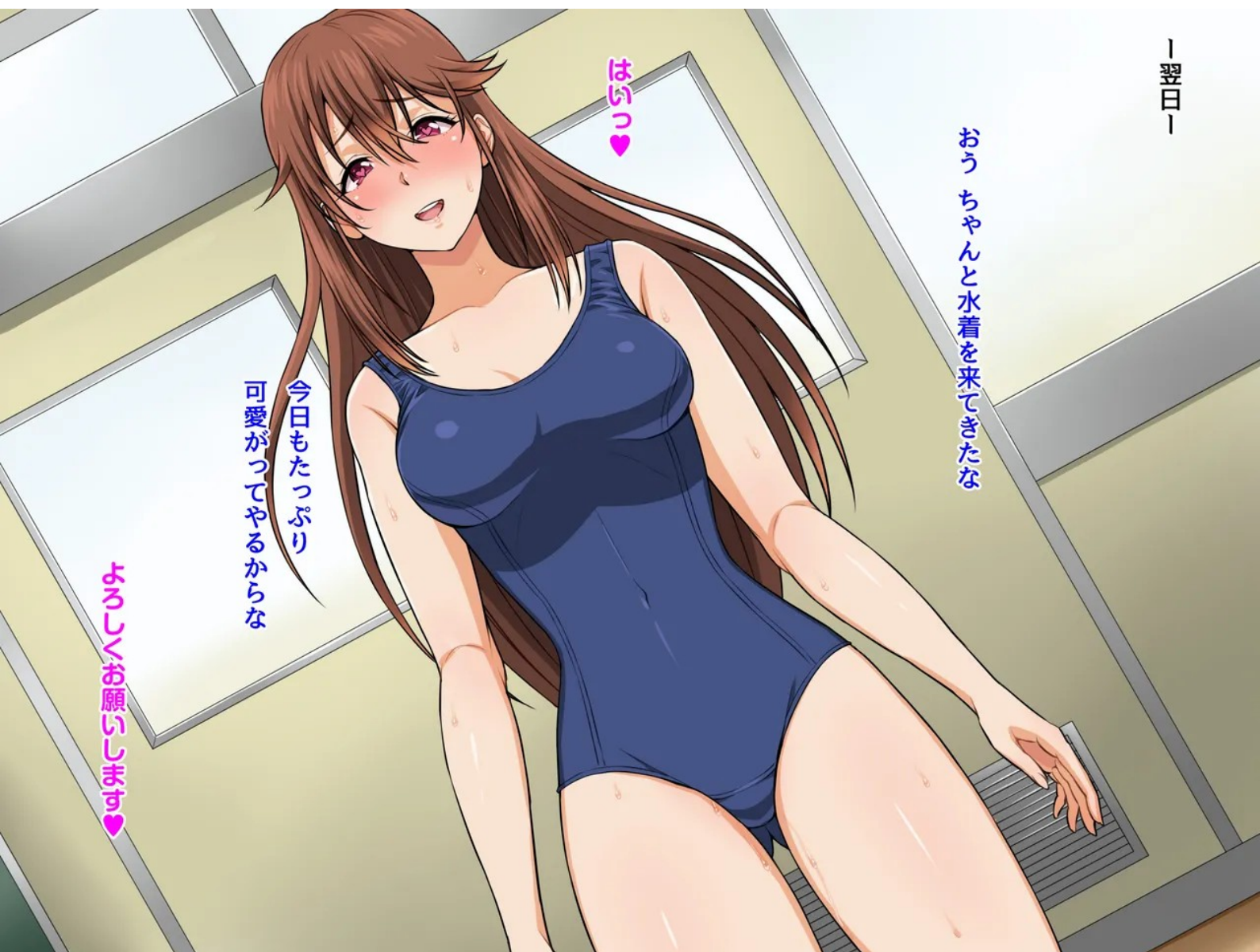
—翌日—

おうちゃんと水着を来てきたな

はいっ♡

今日もたっぷり  
可愛がつてやるからな

あなたも願う気持ち♡







すっかりスケベな雌になっちまったな  
急かさなくてもハメてやるよ

ニ  
ニ  
ニ

ああっ

先生はやくう







おっ  
イクか? イキそうか?

おっ

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

アッ  
アッ

アッ  
アッ



一回イッた時に正気に戻るように  
催眠をかけておいたんだよ

…催眠!?

…!?

えっ

倉田…!?  
なんで??





あっ♡

ああっ♡

今止めれば正気に戻れるぞ

ただしこのまま続けて  
もう一度イッた時には  
二度と解けない催眠がかかる

「生俺の肉奴隷になる」  
つていう催眠がな

そっ  
そんなんっ♡



あっ♡

イクッ♡

イクっ♡

~~~~~♡~~~~~

あぁッ

俺もイキそうだった



おおつ
イクツ!!

♡♡



ふう…

これからもずっと

面倒見てやるからな

梨央菜

…はい…♡

よろしくお願いします

先生…♡



END







































































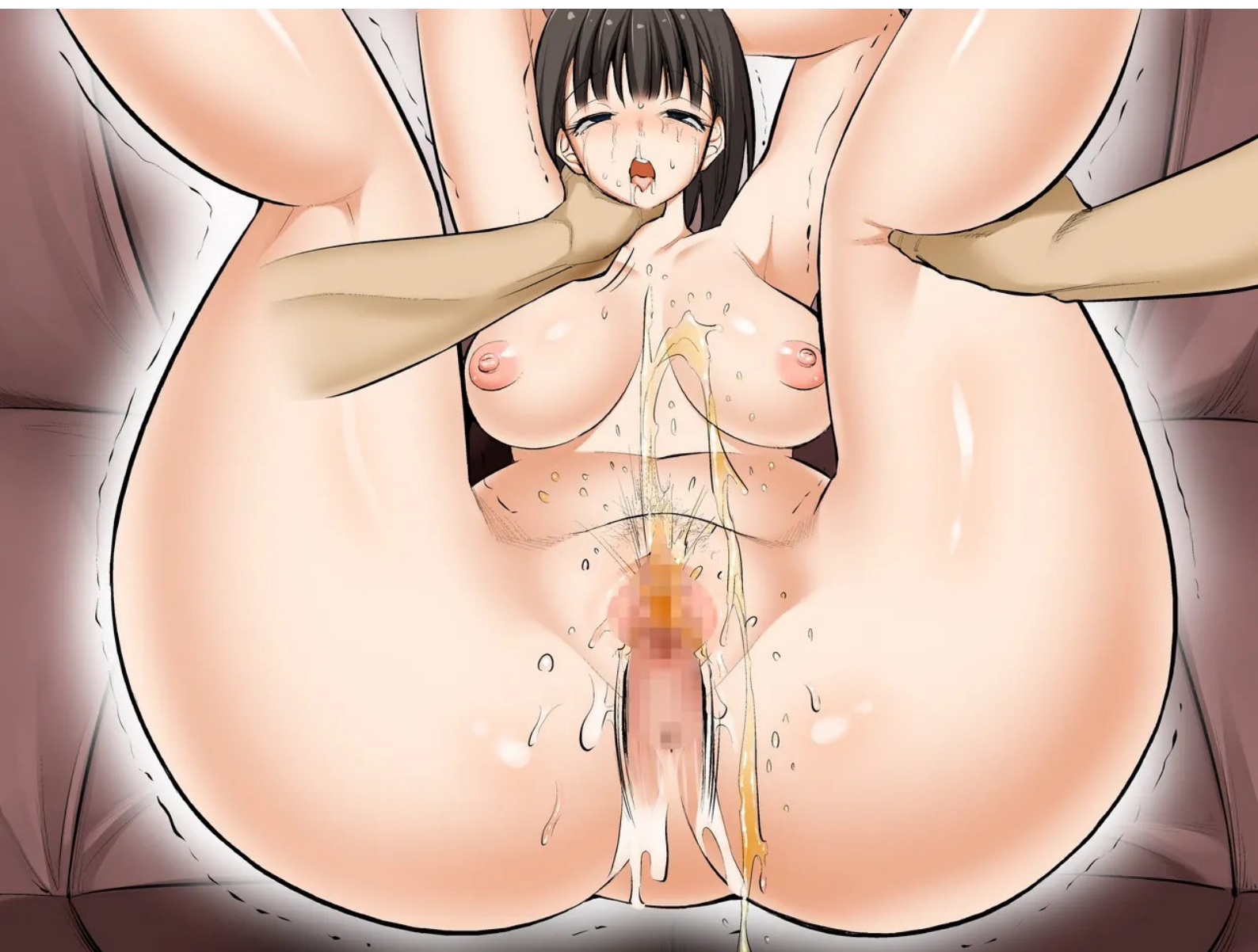




































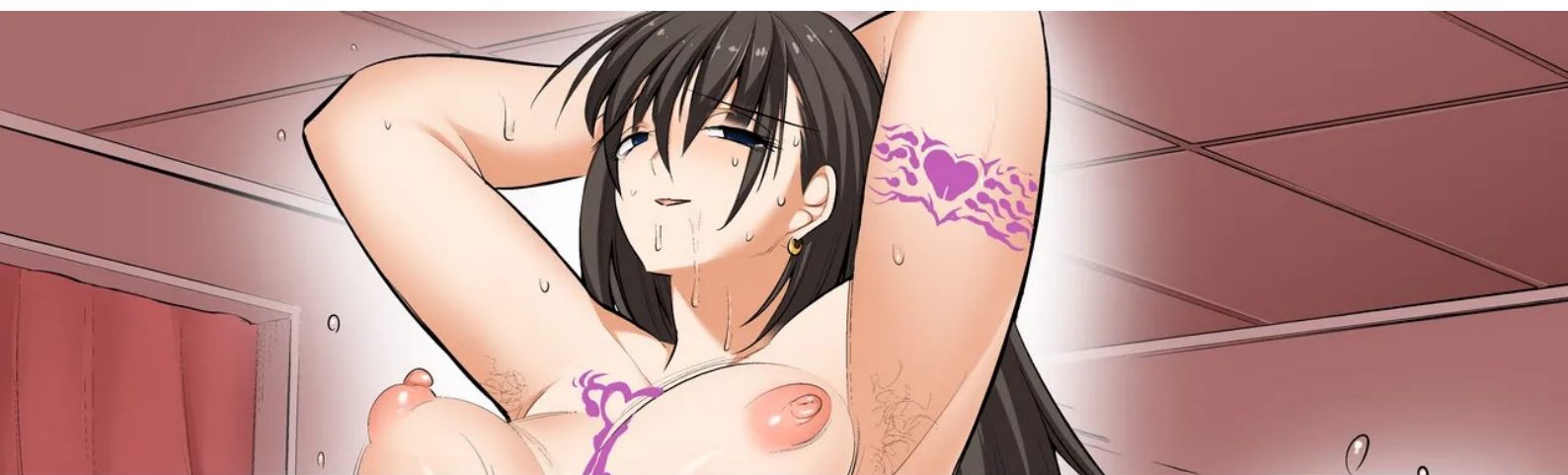














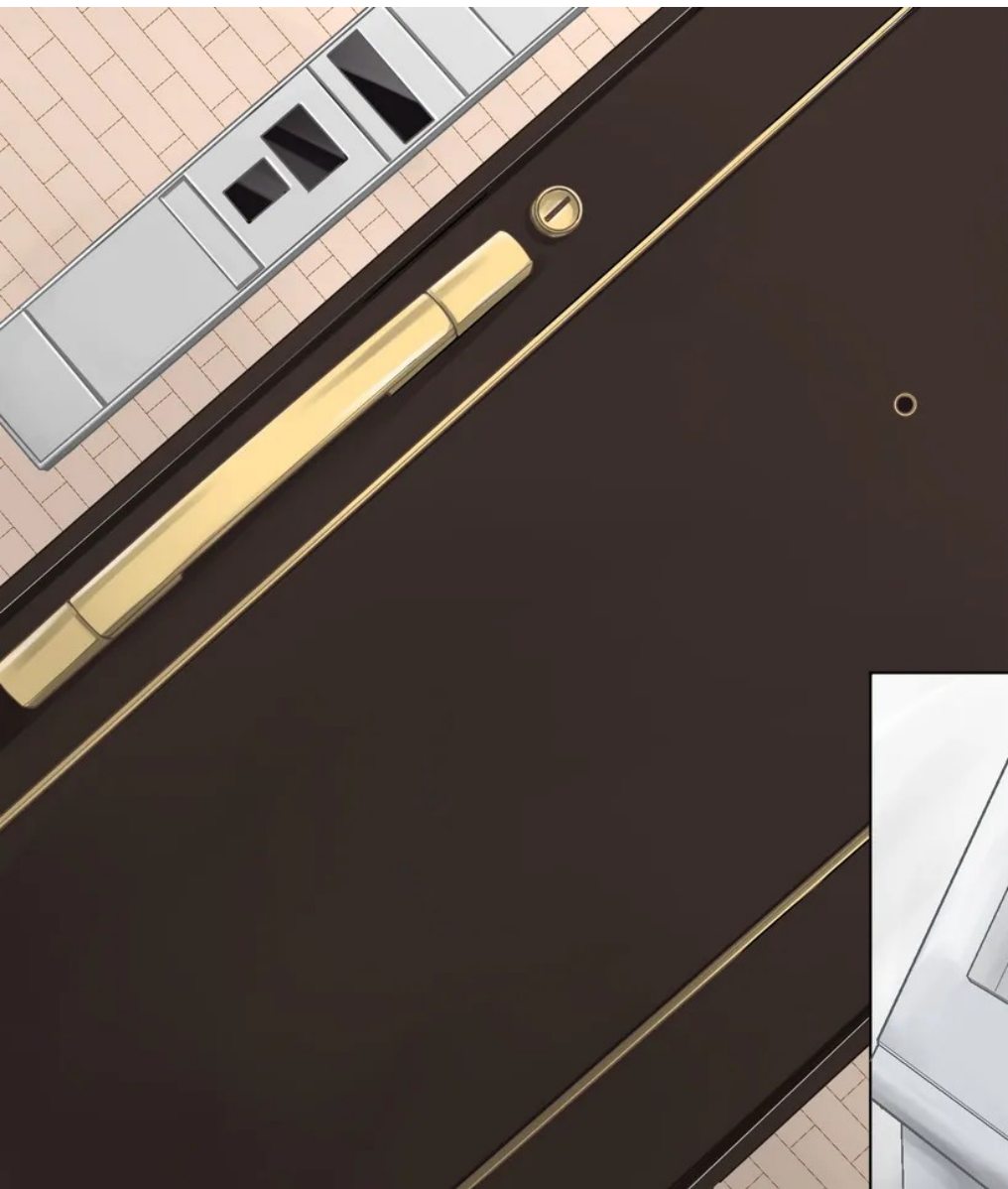


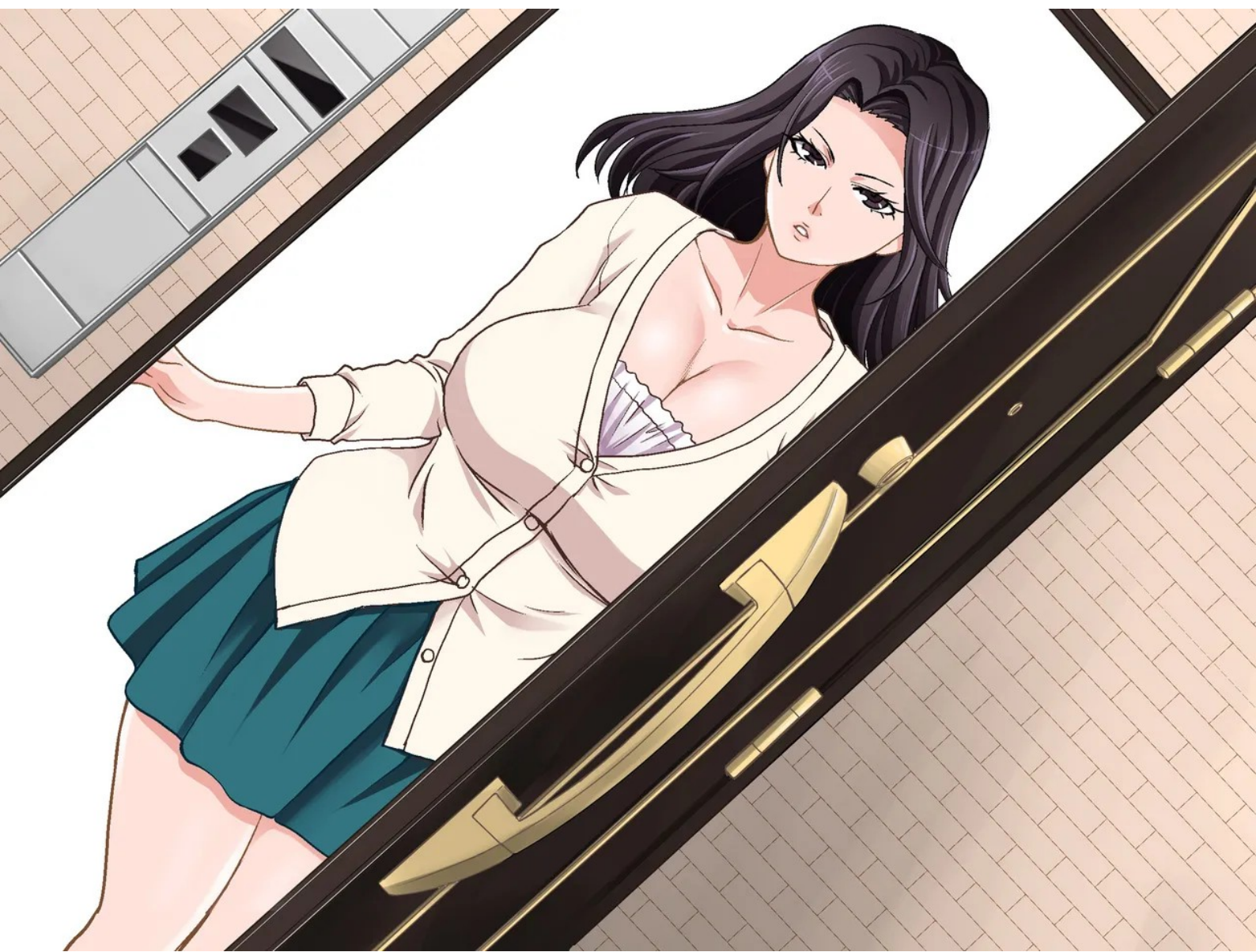










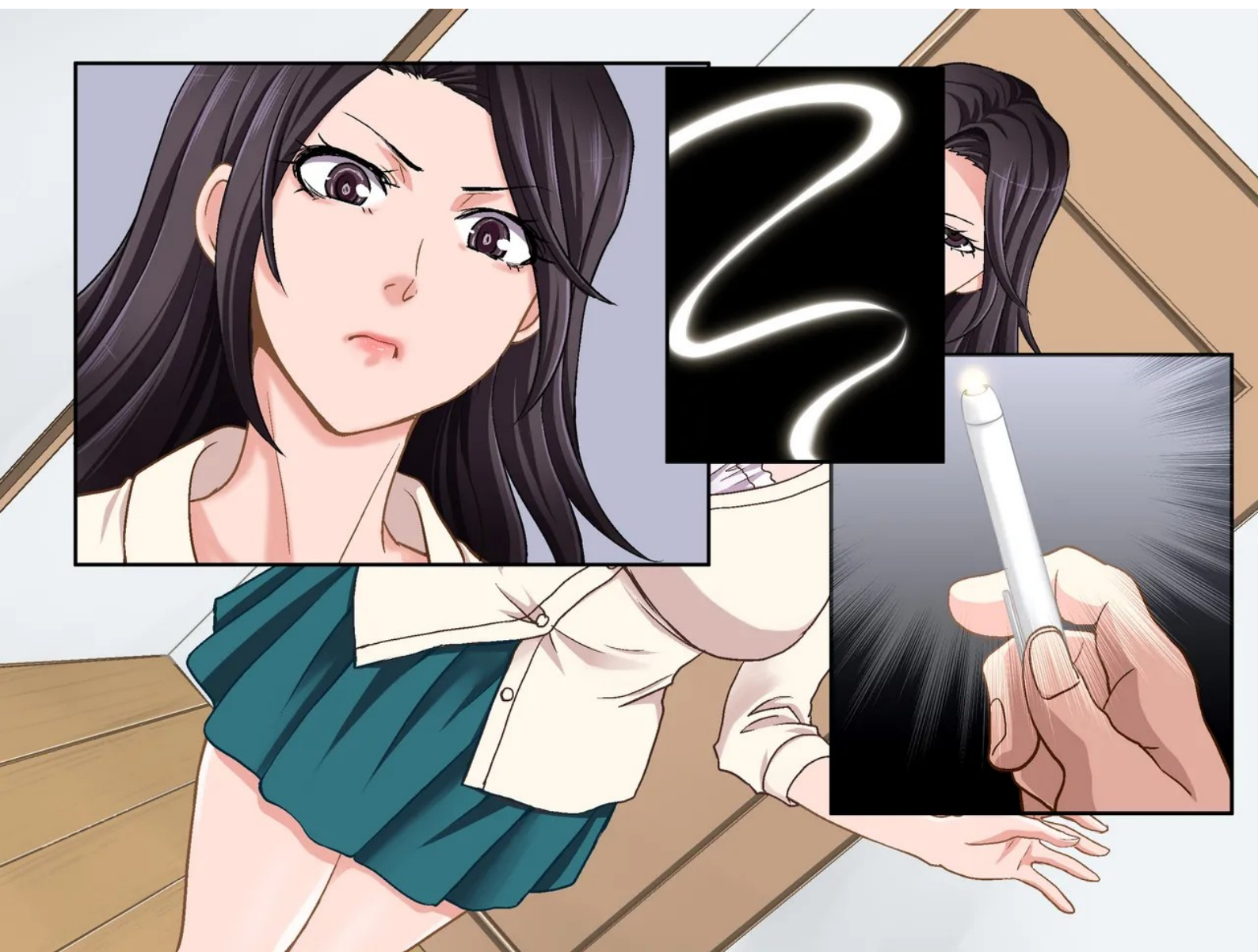






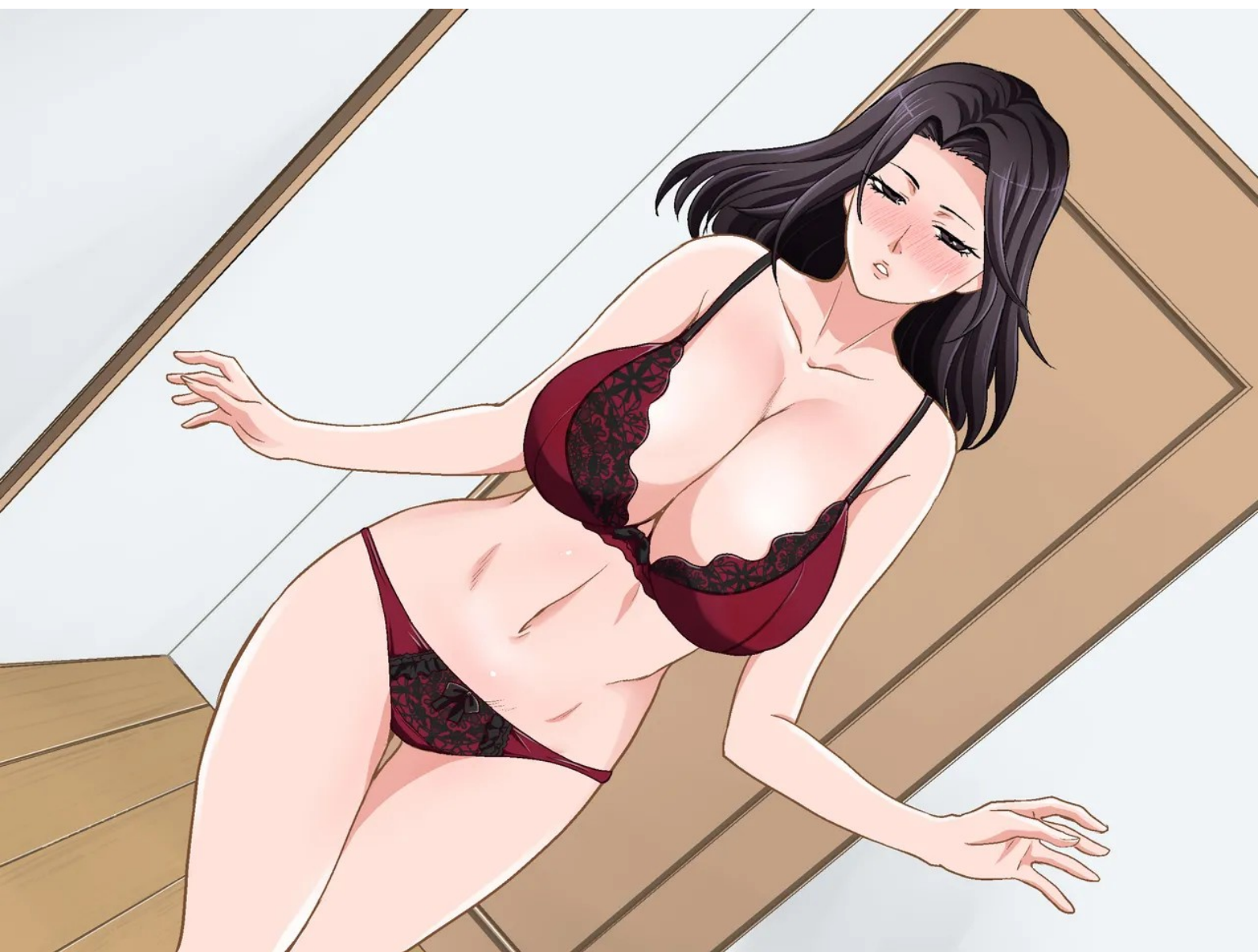


















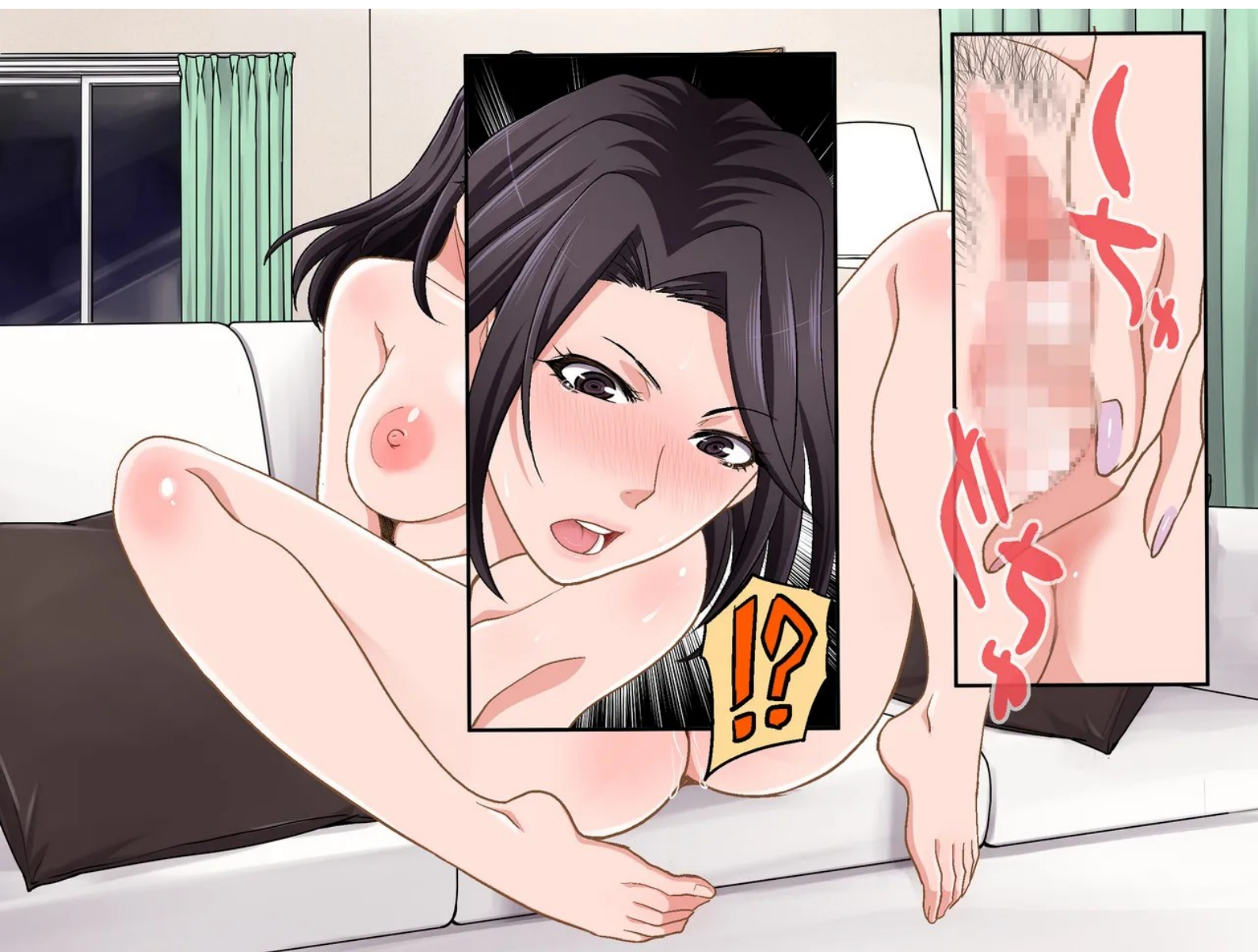


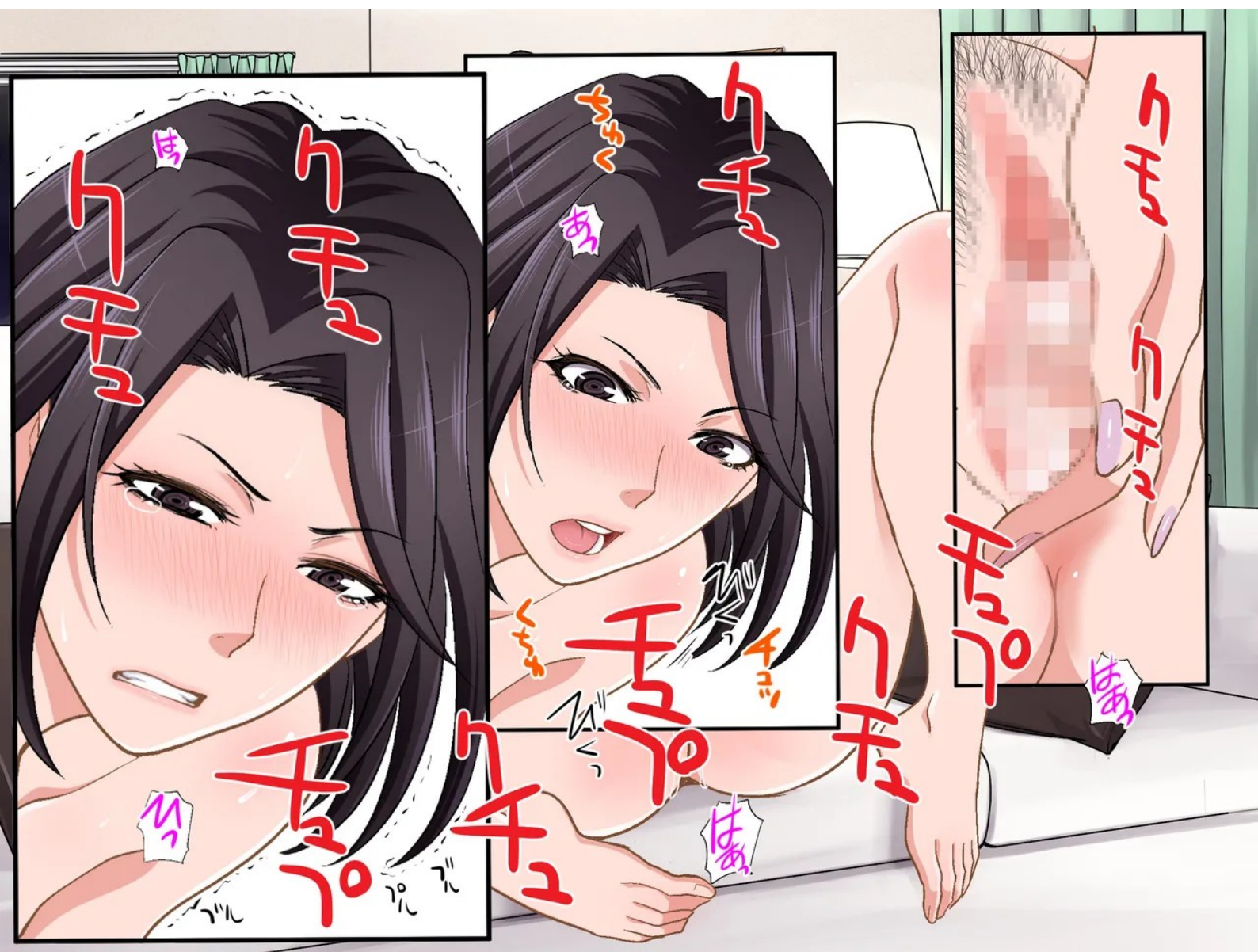


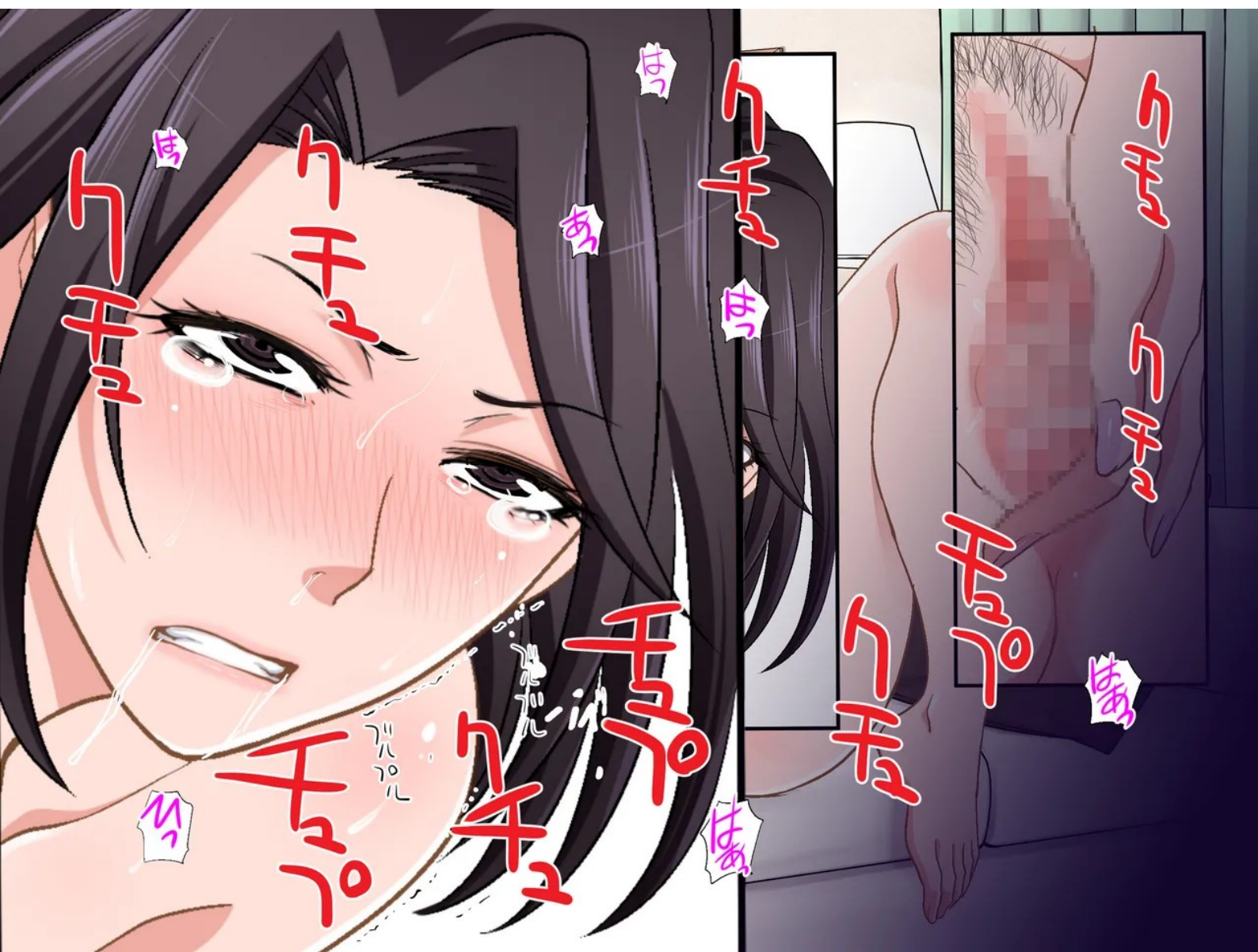










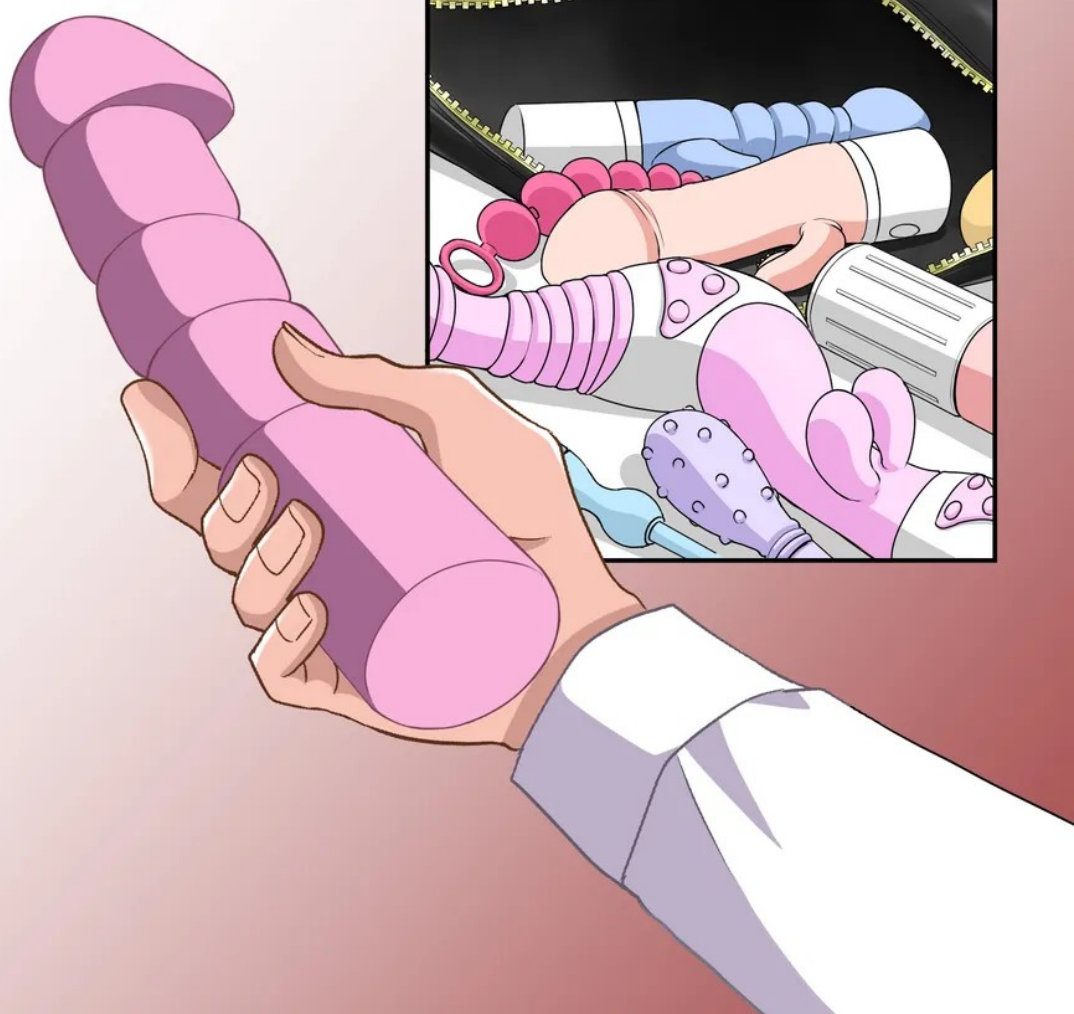


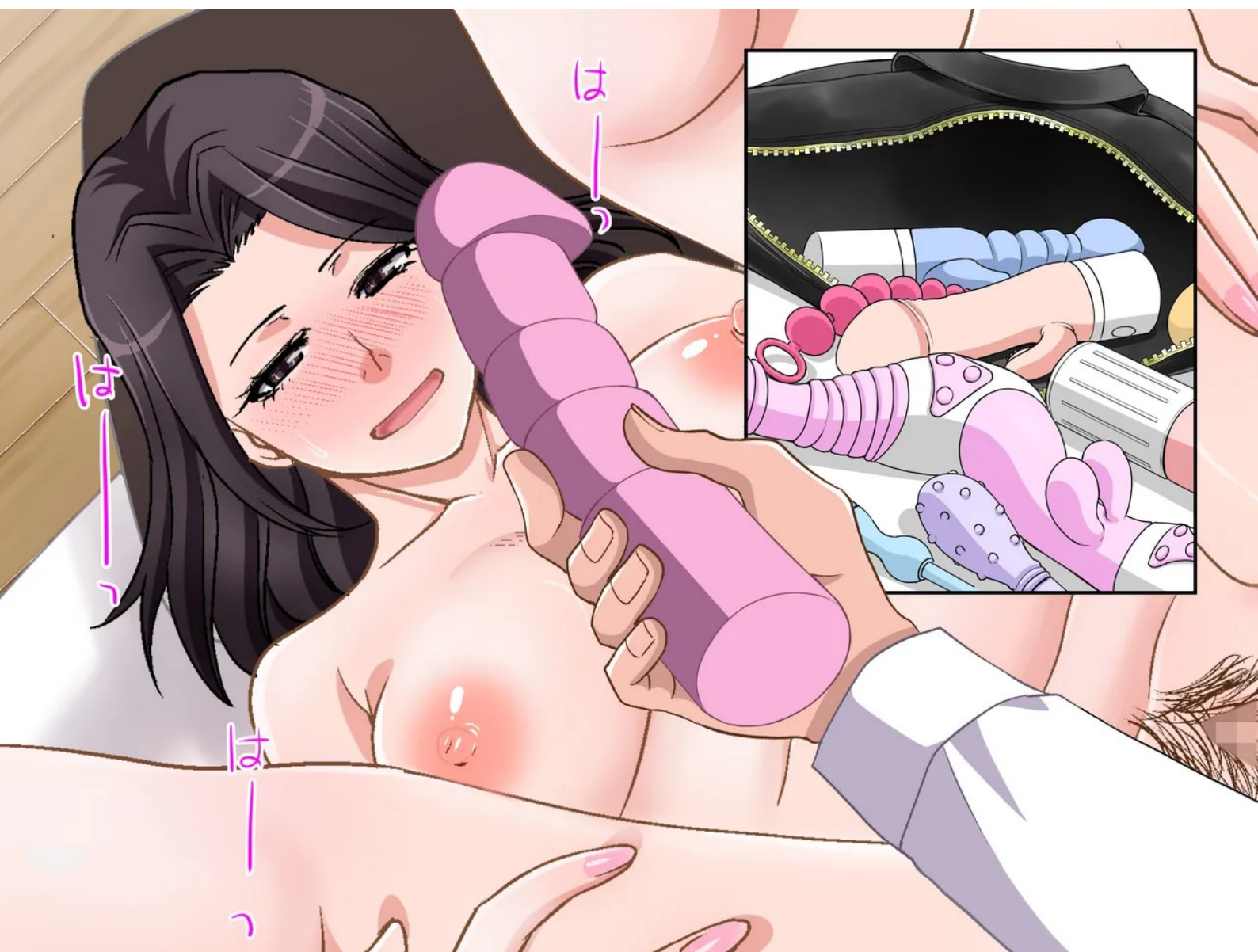




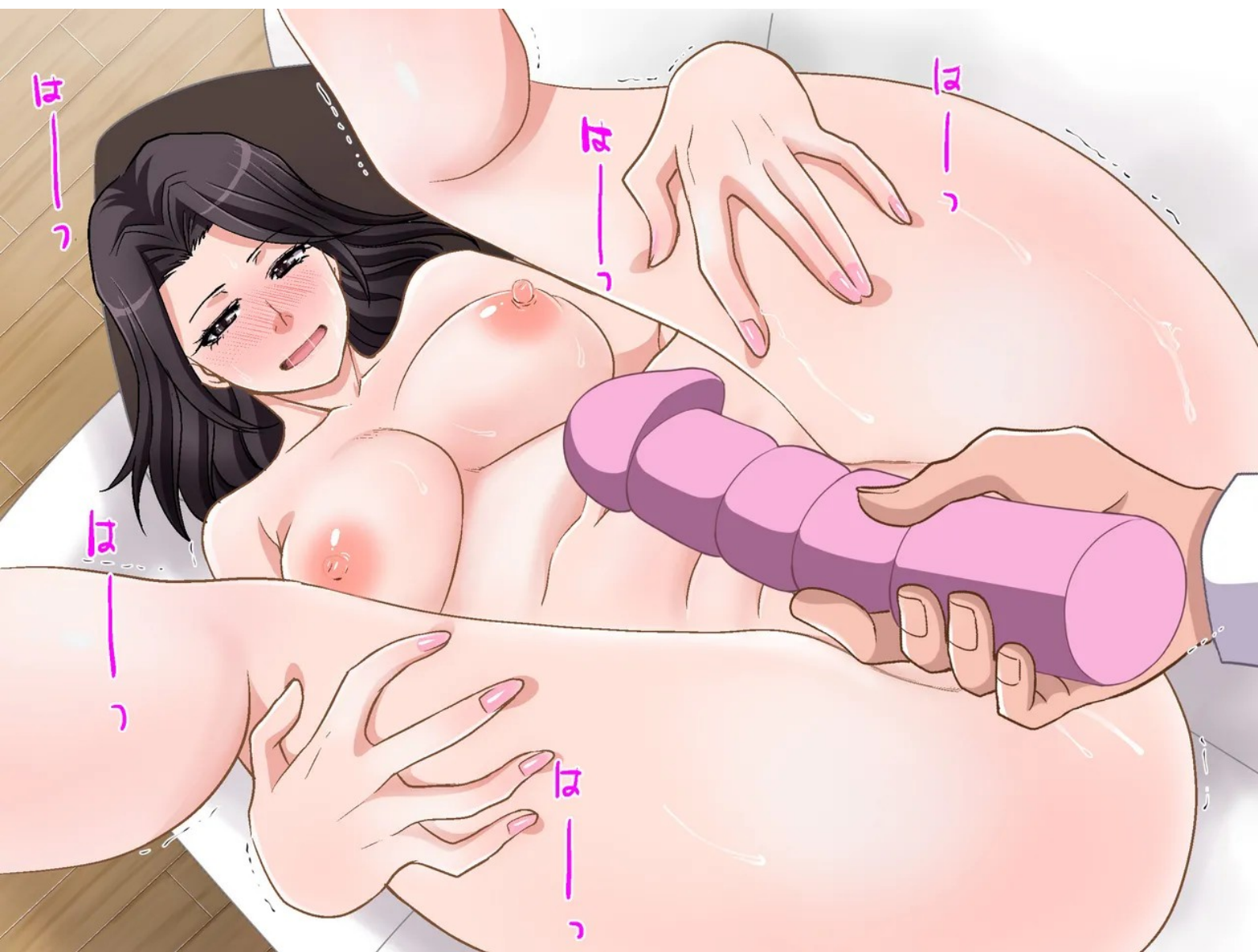


















何よこれ？
どういふ事かい！

ひん
たっ

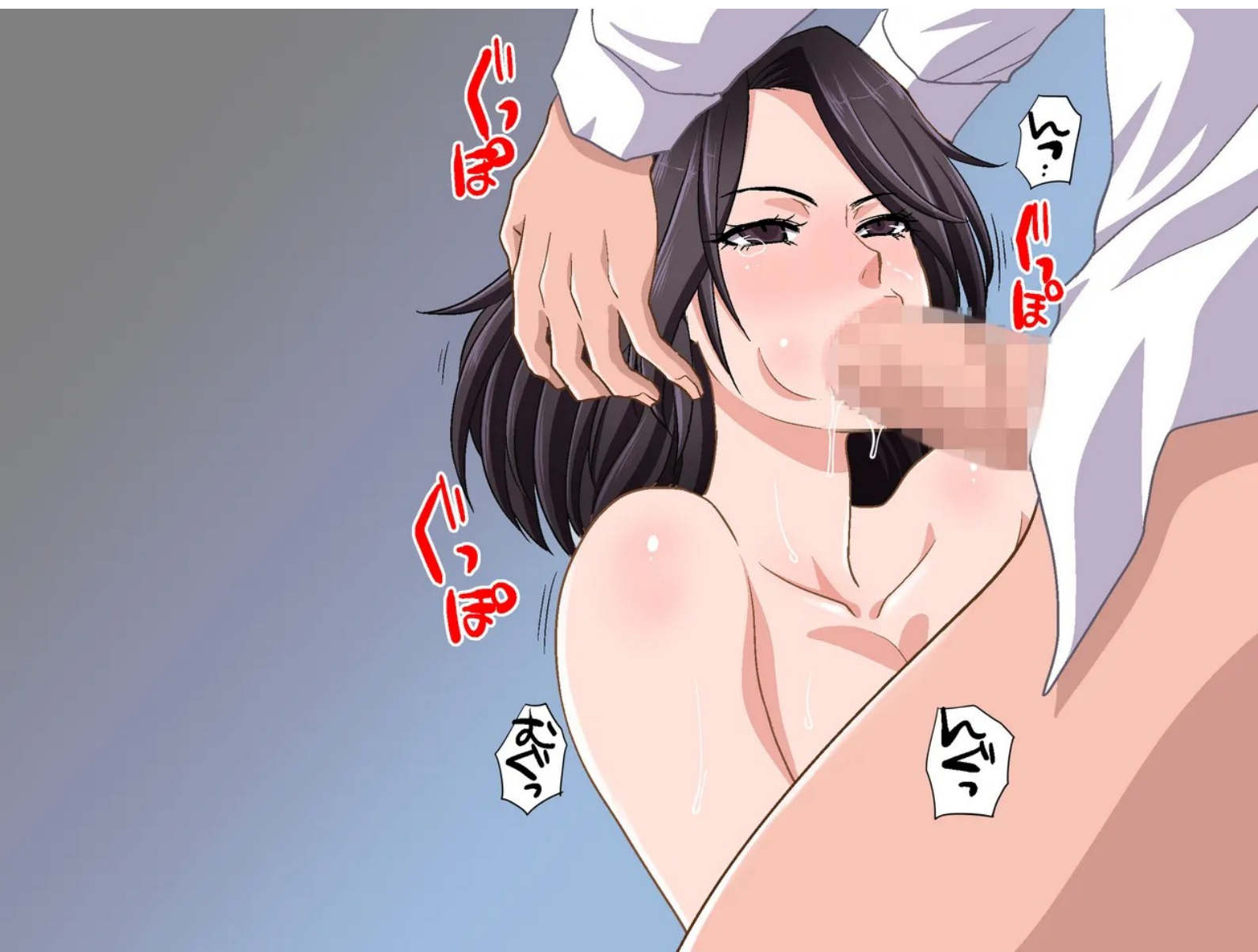
あら何
をいふの
か！



嫌...だめ...

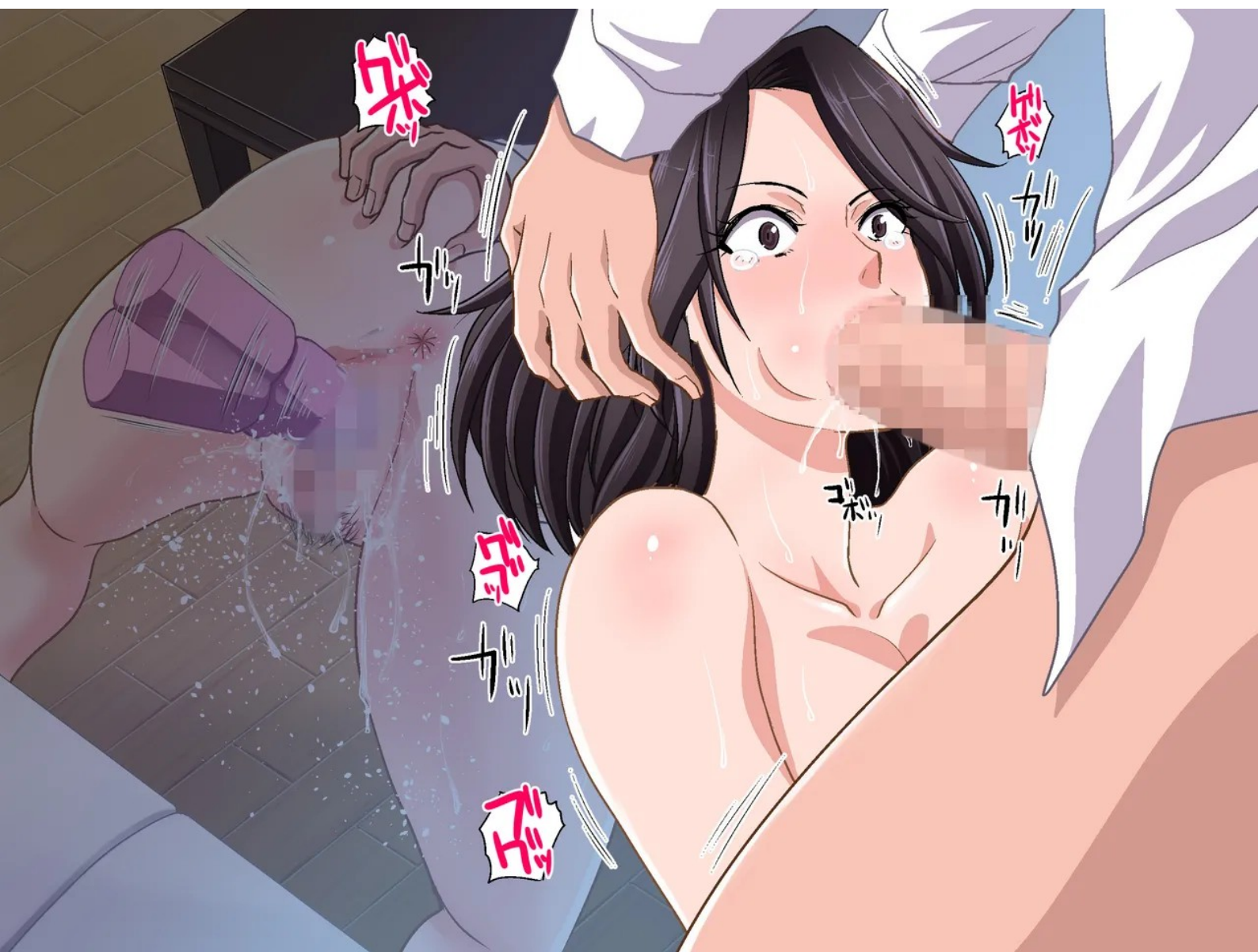
お母さん...
うめ...





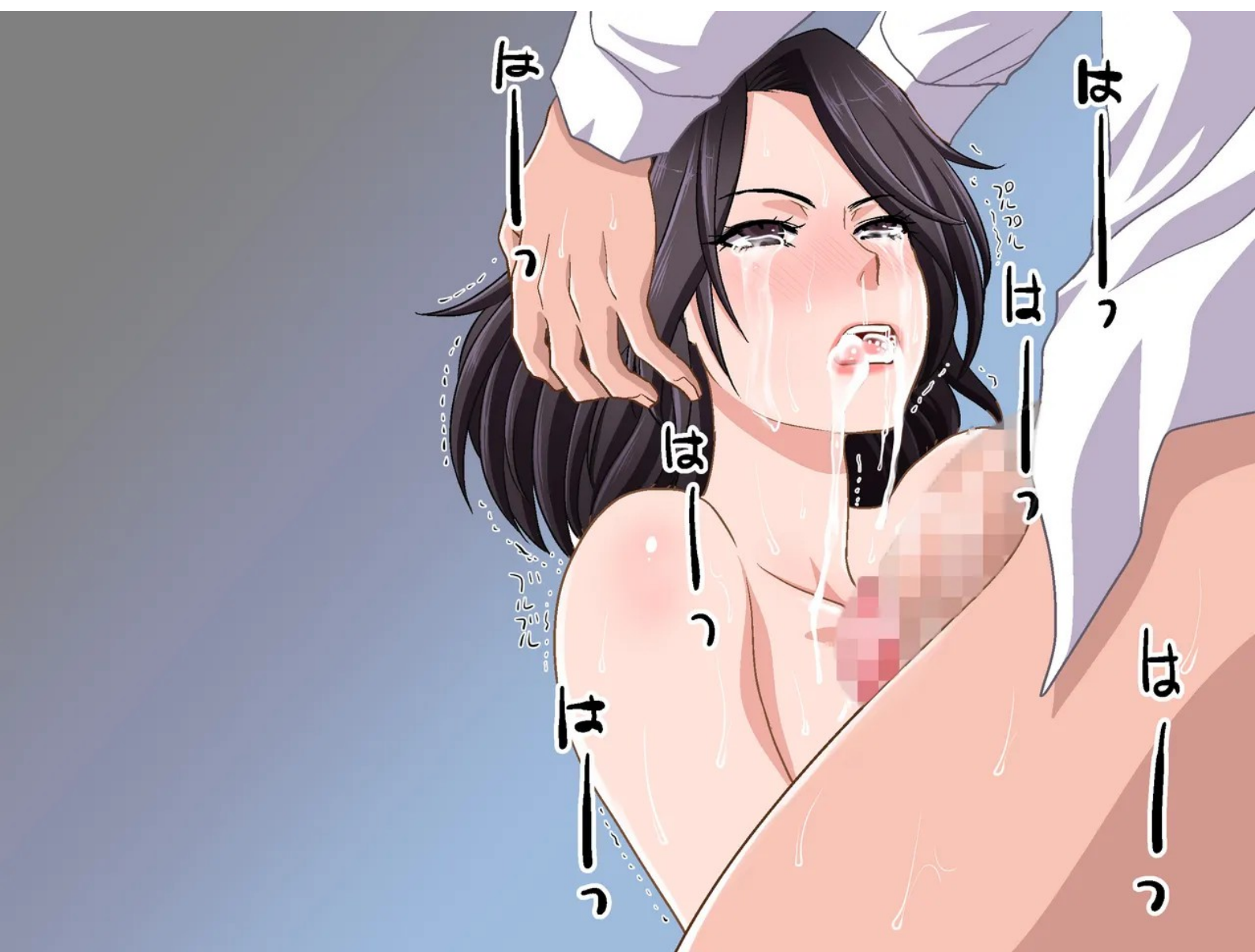














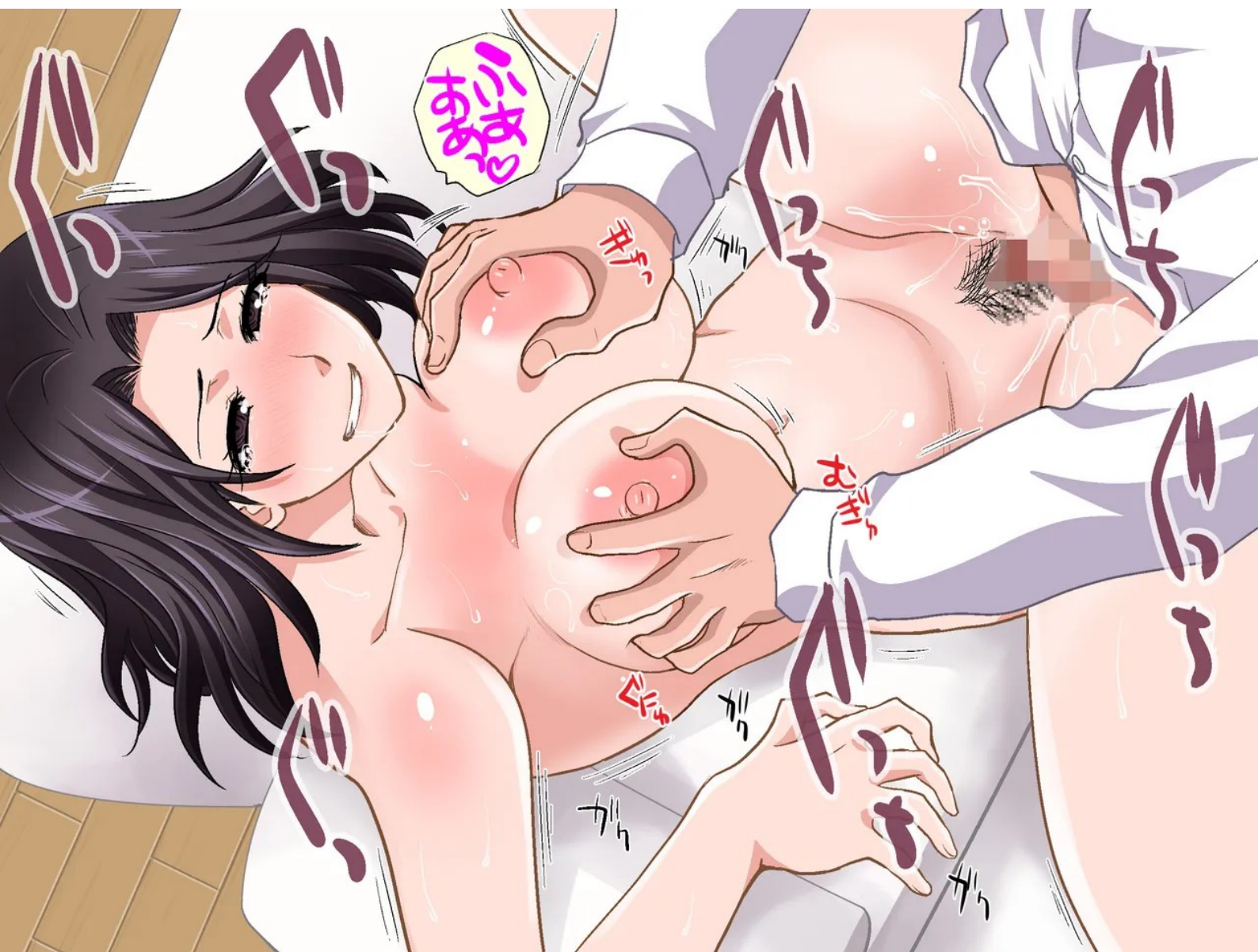














ちゅっ

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ



はい♡

奥さん
入ってるの
見える？

ああああ
ああ、♡

丸見え
ですぅ、

グ
グ

グ
グ

グ
グ

























